

2年 表現文化学科

表現文化学科教育課程表(2024年度(令和6年)入学生)																			
区分		科目	単位						開講時期				担当教員名	同時授業	卒必	司書	上級 秘書士 (メディカル秘書)	備考	
			授業の 方法	必修	選択	1年生		2年生		前	通	後	前	通	後				
						前	通	後	前	通	後								
教養科目	人間と文化	日本文化	講義	2		○				金子未佳				△2	△16	△16	【教養科目】 卒業要件:14単位以上(必修含む)		
		芸術に親しむ	講義	2	○				七字詩子/長谷川裕久				△2				「人間と文化」2単位以上		
		子どもと読書	講義	2		○			高橋香緒理				△2	○			「人間と社会」必修を含め6単位以上		
		こども未来学	講義	2					開講せず				△2				「生活と科学」2単位以上		
	人間と社会	ウィンドアンサンブル入門	演習	1		◇			八木澤香菜				△2				「実務と情報」2単位以上 ワインドアンサンブル入門(△年間15回)		
		日本国憲法	講義	2	○				小口恵巳子				▲4				「人間と社会」必修を含め6単位以上		
		生涯学習概論	講義	2			○		○ 金子未佳				▲4	○			「人間と社会」必修を含め6単位以上		
専門科目	生活と科学	女性学	講義	2		○			小林和子/小口恵巳子				▲4				「生活と科学」2単位以上		
		女性と社会生活	講義	2	○				辻亮子				△4	△16	△16		「表現文化学科教員」		
		キャリア形成ゼミⅠ	演習	1		○			表現文化学科教員				○	○	○		「表現文化学科教員」		
	実務と情報	キャリア形成ゼミⅡ	演習	1			○		表現文化学科教員				○	○	○		「表現文化学科教員」		
		生活と環境	講義	2	○				佐藤瞳				※2				「表現文化学科教員」		
		身体のしみと動き	講義	2		○			安嶋隆				※2				「表現文化学科教員」		
		マルチメディア演習	演習	2	○				小松崎浩司				□2	△16	△16		「表現文化学科教員」		
専門科目	人間と健康	プレゼンテーション入門	講義	2			○		塙雅文				□2				「表現文化学科教員」		
		健康とスポーツ	講義	1		○			赤堀文也								「表現文化学科教員」		
		ダンス入門	実技	1	○				国府田はるか								「表現文化学科教員」		
	外国語	英語 I-A	演習	1		○			内浦真二				○				「表現文化学科教員」		
		英語 I-B	演習	1			○		内浦真二				○				「表現文化学科教員」		
		『説む』ということI	講義	2		○			小林和子				○	△16	△16		【専門科目】 卒業要件:48単位以上(必修含む)		
		『説む』ということII	講義	2			○		金子未佳				○				【必修】○24単位		
専門科目	基礎ゼミナール	『書く』ということI	講義	2		○			小野孝尚				○	△16	△16		【選択】■22単位以上		
		『書く』ということII	講義	2			○		小野孝尚				○				「文字を学ぶ」		
		『話す聞く』ということ	講義	2		○			金子未佳				○	△16	△16		「文化ことば」		
		日本語・日本文学の歴史	講義	2			○		小林和子				○				「作品を創る」		
	文化とことば	日本近代文学	講義	2			○		小林和子				■22				「表現力を磨く」		
		古典の森へ	講義	2	○				石井純一				■22				「情報社会と表現」		
		漢文学	講義	2	○				小野幸江				R6(2024)1.2年	■22			地域文化論(△年間15回)		
専門科目	表現を学ぶ	書物論1/4期	講義	1		○			金子未佳				R6(2024)1.2年	■22	△2		【選択必修】2単位		
		漫画の世界	講義	2	○				高橋香緒理				R6(2024)1.2年	■22			「表現力集成」		
		地域文化論	講義	2		◇			表現文化学科教員・(塙雅文)				○				◆2科目または△2科目いずれか		
	表現を学ぶ	映像の世界	講義	2	○				小松崎浩司				R6(2024)1.2年	■22			【選択必修】2単位		
		表現入門	講義	2		○			長谷川裕久				○				「表現力集成」		
		戯曲に親しむ	講義	2			○		長谷川裕久				○				◆2科目または△2科目いずれか		
		身体表現基礎	講義	2			○		平松み紀				○				【選択必修】2単位		
専門科目	作品を創る	書道I	演習	1	○				小野幸江				■22				「表現力を磨く」		
		書道II	演習	1		○			小野幸江				■22				「表現力を磨く」		
		文芸創作(詩歌)	演習	1			○		小野孝尚				■22				「表現力を磨く」		
	表現力を磨く	文芸創作(小説)	演習	1			○		○ 小野孝尚				■22				「表現力を磨く」		
		身体表現創作	演習	1			○		長谷川裕久				■22				「表現力を磨く」		
		日本語表現	講義	2			○		金子未佳				■22	△16	△16		「表現力を磨く」		
		プレゼンテーション演習	演習	2			○		○ 小松崎浩司				■22				「表現力を磨く」		
資格取得に関する専門科目	表現力を磨く	プロジェクト演習	演習	2			○		○ 石井純一				■22	○	△16		「表現力を磨く」		
		人間関係論	講義	2			○		○ 辻亮子				R7(2025)1.2年	■22	△16		「表現力を磨く」		
		図書館活動演習	演習	2			○		○ 小松崎浩司				R7(2025)1.2年	■22	△2	△16	「表現力を磨く」		
		言語文化ゼミナールI	演習	1			○		○ 小林和子				◆		△16	△16	「表現力を磨く」		
	表現力を集成	言語文化ゼミナールII	演習	1			○		○ 小林和子				◆				「表現力を集成」		
		身体表現ゼミナールI	演習	1			○		○ 長谷川裕久				◆				「表現力を集成」		
		身体表現ゼミナールII	演習	1			○		○ 長谷川裕久				◆				「表現力を集成」		
資格取得に関する専門科目	表現力を集成	卒業研究	演習	4			○		○ 小林金子・長谷川				○				「表現力を集成」		
		単位		開講時期						担当教員名				同時授業		卒必	司書	上級 秘書士 (メディカル秘書)	
		授業の方法	必修	選択	1年生	前	通	後	2年生	前	通	後						備考	
		図書館概論	講義	2		○			金子未佳				○					必修 O22単位	
	司書に関する科目	図書制度・経営論	講義	2			○		○ 小松崎浩司				R7(2025)1.2年	○			選択 △2科目2単位以上		
		図書館情報技術論	講義	2		○			○ 小松崎浩司				R6(2024)1.2年	○			合計24単位以上		
		図書館サービス概論	講義	2			○		○ 小松崎浩司				R7(2025)1.2年	○			合計24単位以上		
専門科目	上級秘書士に関する科目	情報サービス論	講義	2			○		○ 金子未佳				R6(2024)1.2年	○			合計26単位以上		
		情報サービス演習	演習	2			○		○ 金子未佳				R7(2025)1.2年	○			合計26単位以上		
		図書館情報資源論	講義	2			○		○ 小松崎浩司				R7(2025)1.2年	○			合計26単位以上		
	上級秘書士(メディカル)に関する科目	情報資源組織論	講義	2			○		○ 小松崎浩司				R7(2025)1.2年	○			合計26単位以上		
		情報資源組織演習	演習	2			○		○ 小松崎浩司				R7(2025)1.2年	○			合計26単位以上		
		図書館基礎特論1/4期	講義	1		○			○ 小松崎浩司				R6(2024)1.2年	△2			合計26単位以上		
		秘書学概論	講義	2	○				周藤亜矢子					○	○		必修 O10単位		
専門科目	上級秘書士(メディカル)に関する科目	秘書実務	演習	2		○			周藤亜矢子					○	○		選択 △16単位以上		
		事務管理	講義	2			○		○ 周藤亜矢子				R7(2025)1.2年	△16	△16		合計26単位以上		
		秘書実務演習	演習	2			○		○ 周藤亜矢子				R7(2025)1.2年	○			合計26単位以上		
	上級秘書士(メディカル)に関する科目	メディカル秘書概論	講義	2		○			周藤亜矢子				R6(2024)1.2年	○			必修 O10単位		
		メディカル秘書実務	演習	2			○		周藤亜矢子				R6(2024)1.2年	○			選択 △単位16以上		

ナンバリング	15211		科目名	生涯学習概論
担当教員	金子 未佳			
年度	2025	年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科 <input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科 <input type="checkbox"/> こども学科
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input type="checkbox"/> 必修(卒) <input type="checkbox"/> 選択必修(卒) <input checked="" type="checkbox"/> 選択(卒) <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修(幼) <input checked="" type="checkbox"/> 必修(司) <input type="checkbox"/> 必修(保) <input type="checkbox"/> 必修(上秘) <input type="checkbox"/> 必修(音療) <input type="checkbox"/> 必修(上秘メ) <input type="checkbox"/> 必修(准) <input type="checkbox"/> 選択必修(幼)	<input type="checkbox"/> 選択必修(保) <input type="checkbox"/> 選択(上秘) <input type="checkbox"/> 選択(幼) <input type="checkbox"/> 選択(上秘メ) <input type="checkbox"/> 選択(保) <input type="checkbox"/> 選択(音療) <input type="checkbox"/> 選択(司)

授業概要 人々が生涯のいつでも学習機会を選択して学ぶことができる「生涯学習」の本質と意義を理解し、これからの生涯学習社会について考察します。

到達目標 生涯学習の本質と意義を正しく理解し、近隣地域における生涯学習の取り組みを学ぶことで、生涯学習を身近に感じ、今後の人生に役立てることができます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針
- 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 - 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 - 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 - 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス 生涯学習概論を学ぶということ
- 02 生涯学習とは何か(1)生涯学習という概念、生涯学習社会の形成
- 03 生涯学習とは何か(2)生涯学習と家庭教育・学校教育・社会教育、生涯学習の現代的意義
- 04 生涯にわたる人間形成（生涯教育という概念と生涯学習という概念、人間形成と生涯学習、ライフサイクル論、生涯発達と発達課題）
- 05 小テスト(1)、施設に基づいた生涯学習活動(1) 生涯学習施設と社会教育施設、学校と地域との連携、公民館、生涯学習推進センター
- 06 施設に基づいた生涯学習活動(2)図書館、博物館
- 07 施設に基づいた生涯学習活動(3)青少年教育施設、女性教育施設、体育施設
- 08 施設に基づいた生涯学習活動(4)指定管理者制度に関する課題、小テスト(2)
- 09 校外学習（生涯学習推進センター）
- 10 校外学習（公共図書館）
- 11 校外学習ふりかえり、生涯学習講座の企画立案、チラシ作成
- 12 生涯学習講座個別発表・投票、生涯にわたる人間形成（生涯設計と生涯学習）
- 13 「ライフサイクルゲームⅢ」を活用し、それぞれの生涯設計を考える
- 14 生涯学習の現代的課題 まちづくりに対応した生涯学習、文化・芸術活動と生涯学習、安全・安心社会づくりの生涯

学習

15 民間団体・機関による生涯学習支援 NPOによる生涯学習活動、教育文化産業による生涯学習、小テスト(3)

授業時間 【事前学修】

- 外の学修
- ・図書館やインターネット資源を活用するとともに、実際に近くの生涯学習施設を見学し、講座等のイベントへ参加するなど、自主的に活動する。
 - ・新聞記事や生涯学習関連の資料収集等、個別発表準備をしておく。 (約2時間)

【事後学修】

- ・授業で学んだ生涯学習施設について、ウェブサイト等で情報を収集し、最新の事業内容を調べる。
- ・友人や家族と、これから生涯学習社会についてディスカッションし、自分の意見をノートにまとめる。(約2時間)

評価方法 小テスト3回（授業の理解を確認するためのもの）（30%）、課題（提出物・発表・中間レポート）・授業への取り組み（30%）、定期試験（40%）

アクティブラーニング グループワーク、グループディスカッション、クイズ形式授業、校外学習

フィードバック 授業毎の課題に対して個別指導及び全体講評のフィードバックを行います。

実務経験 ○ 複数の図書館・博物館での勤務経験から、施設における生涯学習活動について、実例を交えながら分かりやすく解説する。

教科書 香川正弘、鈴木眞理、永井健夫編『よくわかる生涯学習 改訂版（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）』（ミネルヴァ書房、2016）

参考書 なし 授業中に適宜プリントを配布します。

備考 状況によっては、9回・10回の校外学習を中止にし、「生涯学習講座実施（講義型・ワークショップ型）」に変更します。生涯学習講座を実施する際には、別途、教材費（1人300円程度）を徴収する予定です。授業内に課した発表や提出物については、個別に助言を行うとともに、全体講評のフィードバックを行います。授業終了時に、ミニッツペーパーの提出があります。コメントを記して返却します。グループ活動を取り入れた授業を行うので、積極的に参加してください。

ナンバリング	16141		科目名	キャリア形成ゼミ II		
担当教員	表現文化学科教員					
年度	2025		年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科	<input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科 <input type="checkbox"/> こども学科
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input checked="" type="checkbox"/> 通年		単位	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択（卒） <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修（幼） <input type="checkbox"/> 必修（保） <input type="checkbox"/> 必修（音療） <input type="checkbox"/> 必修（准）	<input type="checkbox"/> 必修（司） <input checked="" type="checkbox"/> 必修（上秘） <input checked="" type="checkbox"/> 必修（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択必修（幼）	<input type="checkbox"/> 選択必修（保） <input type="checkbox"/> 選択（幼） <input type="checkbox"/> 選択（保） <input type="checkbox"/> 選択（司）	<input type="checkbox"/> 選択（上秘） <input type="checkbox"/> 選択（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択（音療） <input type="checkbox"/> 選択（上秘）

授業概要 本科目は大きく2つの内容について学びます。

①短大で実施される行事に参加することで集団生活の基本を学びます。

②短期大学で学んだことは、卒業後の進路だけでなく、日常生活にも大きく影響していきます。今から連続している人生の様を「キャリア」と言います。自分のキャリアを考えていきます。

到達目標 【学内行事を通して】短大での集団生活の基本が身につきます。

【キャリア・ガイダンスを通して】自らの学生生活および卒業のキャリアデザインを描けます。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 新学期オリエンテーション、定期健診、グループ別オリエンテーション
- 02 新入生歓迎会（学友会主催：全学合同）
- 03 ハローワークガイダンス
- 04 就職セミナー
- 05 就職セミナー
- 06 学科別研修会（全学科合同 宝塚歌劇鑑賞会）
- 07 防火避難訓練（全学合同）
- 08 就職セミナー
- 09 就職セミナー
- 10 ハローワーク相談
- 11 就職セミナー
- 12 就職セミナー
- 13 防犯講習会（全学合同）
- 14 ハローワーク相談
- 15 就職セミナー

16 就職セミナー
17 グループ交流会（全学科合同 劇団四季ミュージカル鑑賞会）
18 撫子祭事前準備（全学科合同）
19 撫子祭
20 社会人になるにあたって
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30

授業時間 【事前学修】

外の学修 キャリアについて考える回および講話等で事前学修を求めることがあります。

【事後学修】

課題を求めることがあります。全体で15時間以上の事後学修時間が必要となります。特に本科目は一人で取り組む独習だけでなく、他の学生・教職員とともに協働して進める課題も多くあります。協働してより互いに効果を得られる学習に努めてください。

全体で15時間以上の授業外学修時間を要します。

評価方法 授業への取り組み、課題への取り組み、振り返りフォーム（100%）

アクティブラーニング ワークショップ、外部講師による講話、セルフプランニング、振り返りフォーム

フィードバック 教員からの口頭および紙面によるフィードバック 対面あるいはオンラインによる面談、相談

実務経験 ○ キャリアコンサルティング技能士、キャリア・コンサルタントによるキャリア・ディベロップメント・プログラムの実施

教科書

参考書

備考

- ・演習科目です。全回出席してください。
- ・やむなく欠席する際は、事前に担当教員に連絡してください。
- ・外部講師講話等は講師の都合等で日時変更がある場合があります。その場合は確定次第授業時間変更の告知を行います。
- ・人の数だけ進路もあります。自身の将来のことで何か気になったら些細なことでもいいので遠慮なく担任や学科教員、進路相談室、学生カウンセリングに遠慮なく相談してください。

ナンバリング	14200		科目名	日本近代文学
担当教員	小林 和子			
年度	2025	年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科 <input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科 <input type="checkbox"/> こども学科
期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input type="checkbox"/> 必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択必修（卒） <input checked="" type="checkbox"/> 選択（卒） <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修（幼） <input type="checkbox"/> 必修（保） <input type="checkbox"/> 必修（音療） <input type="checkbox"/> 必修（准） <input type="checkbox"/> 必修（司） <input type="checkbox"/> 必修（上秘） <input type="checkbox"/> 必修（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択必修（幼） <input type="checkbox"/> 選択（保） <input type="checkbox"/> 選択（司） <input type="checkbox"/> 選択必修（上秘） <input type="checkbox"/> 選択（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択（音療） <input type="checkbox"/> 選択（司）	<input type="checkbox"/> 選択必修（保） <input type="checkbox"/> 選択（上秘） <input type="checkbox"/> 選択（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択（音療）

授業概要 一年次必修の「日本語・日本文学の歴史」の後を受けて、日本近代文学の概略をもう一度詳しく学びます。その後、映像化された日本近代文学の名作を鑑賞し、原作を読んで、原作と比較します。そのことによって、文学と映画との違いや、名作作品の魅力を考える授業です。この授業では、グループに分かれてディスカッションを行い、考察の共有と深化を図ります。なお、扱う作品は履修者の希望も取り入れたいので変わることもあります。

到達目標 (1) 近代文学の概要を復習し、幅広い近代文学への基礎知識を身に着けることができるようになります。 (2) 日本近代文学の名作を映像をきっかけとして学び、文学作品への幅広い興味を引き出すことができるようになります。 (3) 文学表現と映像表現の違いを理解し、多様な言語表象を分析統合し、総合的に表現する方法の基礎を学び、卒業論文につなげることができます。(4)日本文学に関する知識や鑑賞能力を習得することができます。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス及び日本文学の概略の復習、日本近代文学の歴史について
- 02 日本近代文学の歴史－明治から昭和まで－
- 03 日本近代文学史の小テストとまとめ
- 04 黒澤明監督映画「羅生門」と芥川龍之介「藪の中」について
- 05 BUNGOビデオと原作について
- 06 映画「夢十夜」（夏目漱石原作）鑑賞
- 07 原作「夢十夜」について
- 08 森田芳光監督映画「それから」（夏目漱石原作）鑑賞
- 09 原作「それから」について
- 10 宮崎駿監督アニメ映画「風立ちぬ」鑑賞
- 11 堀辰雄「風立ちぬ」について
- 12 映画「ヴィヨンの妻」（太宰治原作）鑑賞

-
- 13 原作「ヴィヨンの妻」について
 - 14 原作と映像化の問題について（多様な言語表象を比較分析する方法を学ぶ）
 - 15 近代文学作品の映像化と原作との比較についてのまとめ
-

授業時間 【事前学修】

外の学修 1年次の「日本語・日本文学の歴史」のテキストを復習しておくこと。特に近代について読んでおくこと。映像鑑賞前に必ず原作を読んで感想をまとめておくこと。原作と映像との違いをノート等に書きだしておくこと。学修の目安は約2時間程度とする。

【事後学修】

近代文学史の講義後確認テストを行いますので復習が必ず必要です。また、映像を見た後に原作との比較をしてノートなどに記録してレポートに備えます。最低2時間を目安とします。

評価方法 近代文学に関する確認テスト(30%)、授業に対する取り組み(40%)、レポート(30%)
授業に対する取り組み：ディスカッション時の発言やリアクションペーパーの内容。レポート：映像作品と原作との比較ができているかどうかなど。

アクティブラーニング グループディスカッション、リアクションペーパー

フィードバック 授業毎のリアクションペーパーについて、個別のフィードバックを行います。

実務経験

教科書 なし（プリントを配付する）

参考書 映像に扱う作品（漱石「夢十夜」「それから」、芥川「羅生門」「藪の中」、三島「潮騒」、堀辰雄「風立ちぬ」、太宰「ヴィヨンの妻」など）

備考 グループディスカッションを取り入れた授業を行うので、積極的に参加してください。他の人の意見をよく聴き、自分でしっかり考えて発言することを求めます。

ナンバリング	14200		科目名	文芸創作（詩歌）
担当教員	小野 孝尚			
年度	2025	年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科 <input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科 <input type="checkbox"/> こども学科
期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法 <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input type="checkbox"/> 必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択必修（卒） <input checked="" type="checkbox"/> 選択（卒） <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修（幼） <input type="checkbox"/> 必修（保） <input type="checkbox"/> 必修（音療） <input type="checkbox"/> 必修（准） <input type="checkbox"/> 必修（司） <input type="checkbox"/> 必修（上秘） <input type="checkbox"/> 必修（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択必修（保） <input type="checkbox"/> 選択（幼） <input type="checkbox"/> 選択（保） <input type="checkbox"/> 選択（司） <input type="checkbox"/> 選択（上秘） <input type="checkbox"/> 選択（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択（音療） <input type="checkbox"/> 選択（）	

授業概要 文芸創作にあたっての基本的なことや基礎を学び、各自がそれぞれに創作することを目的とします。前期は主として、韻文(自叙伝詩、大学行事に於ける句作等)についての基本的なことを学び、郷土の先人の豊かな感性と人間性に溢れた創作作品を体感し、自らの創作活動の糸口とし、糧としたい。
郷土の先人たちの創作作品に触れ、文芸創作を身近に感じ、読解力と郷土愛を深める。
各自それが創作することによって、文章表現（韻文、散文）をするための感性と想像力をみがく。
(1)韻文制作の基本的なことを学び、郷土茨城の代表的な詩人等の作品を鑑賞し、創作の動機、作品の成立背景、感動の中心、読解と分析鑑賞。 (2)実際に韻文(自叙伝詩、大学行事に於ける句作等)の創作と相互批評。

到達目標 ・文芸創作の基本的な情報収集力や構成力を高め自立した人間として社会生活を営むことが出来ます。
・郷土の先人たちの創作作品に触れ、文芸創作を身近に感じ、読解力や鑑賞能力が身に付き郷土愛を深めることができます。
・各自それが創作することによって、文章表現（韻文、散文）をするための感性と想像力をみがくことが出来、社会人としてのコミュニケーション能力が身に付きます。

学位授与 方針 【表現文化学科】
 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 韵文の創作に当たって(長塚節の観点から)
(1)感性(2)言語習慣(3)発想・着想
- 02 風土と詩～詩作品に表われた筑波山と霞ヶ浦
(1)寺門仁(2)大手拓次(3)室生犀星
- 03 横瀬夜雨の作品から「神も仏も」「影」「お才」「やれだいこ」
- 04 創作
- 05 創作
- 06 創作・推敲
- 07 清水橋村の作品から「風」「村の鍛冶屋」「柏木」
- 08 清水橋村の作品から「空間」「雲雀」

- 09 創作
- 10 創作・推敲
- 11 野口雨情の作品から 「己の家」「船頭小唄」「十五夜お月さん」
- 12 野口雨情の作品から 「シャボン玉」「七つの子」「蜀黍畠」
- 13 創作
- 14 創作・推敲
- 15 創作物の整理・まとめ

授業時間 【事前学修】

外の学修 創作のための情報の収集と整理。図書館等での調べ学習。課題作文の文案について考える。学修の目安は1時間程度とする。

【事後学修】

課題作文や創作した文章の推敲。文庫本等で名作を読む。

課題図書を読む。学修の目安は1時間程度とする。

-
- 評価方法 (1) 授業への取り組み(30%)
(2) 宿題や提出物(30%)
(3) 創作案(40%)
創作作品の評価については、主題(40%) 構成(30%) 表現(30%)

アクティブラーニング 自伝詩を書くためのエスキース（下絵、デッサン、習作）を行い、そこから推敲を重ねて、韻文作品を制作する。総てに於いて能動的な学習となる。

フィードバック 授業の中で、個別に制作状況を確認しながら質疑応答し、進める。

提出物は、総てコメントを付し返却する。

実務経験

教科書 茨城の近代文学逍遙（小野孝尚著 泊船堂）ISBN978-4-904389-17-1 適宜プリントも使用

参考書 『茨城近代文学選集I～V』（常陽新聞社）星野徹他編 『霞ヶ浦と文学I～III』（常陽新聞新社）小野孝尚編
『茨城の近代詩人上・下』（筑波書林）小野孝尚著 『茨城の近代詩人群像』（茨城新聞社）小野孝尚著
『長塚節文学賞入選作品集』（各年度）

備考 風土を共にする郷土茨城の文学者の作品から、表現方法等を学びながら実際に創作にチャレンジします。
「課題」等が与えられる場合もあります。
質問・要望等については、あらかじめミニットペーパーを配付しておきますので、その都度記入して提出して下さい。返答します。
提出物や創作したものは、全体講評のフィードバックを行います。秀作は、本人により前に出て朗読してもらい相互評価もします。
学生の皆さんとの積極的な授業参加を期待します。

ナンバリング	15200		科目名	文芸創作（小説）
担当教員	小野 孝尚			
年度	2025	年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科 <input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科 <input type="checkbox"/> こども学科
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法 <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input type="checkbox"/> 必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択必修（卒） <input checked="" type="checkbox"/> 選択（卒） <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修（幼） <input type="checkbox"/> 必修（保） <input type="checkbox"/> 必修（音療） <input type="checkbox"/> 必修（准） <input type="checkbox"/> 必修（司） <input type="checkbox"/> 必修（上秘） <input type="checkbox"/> 必修（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択必修（保） <input type="checkbox"/> 選択（幼） <input type="checkbox"/> 選択（保） <input type="checkbox"/> 選択（司） <input type="checkbox"/> 選択（上秘） <input type="checkbox"/> 選択（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択（音療） <input type="checkbox"/> 選択（司）	

授業概要 前期の韻文の創作に統いて、散文を用いてのエッセイや短編小説や自叙伝を創作します。
散文に於いても、郷土の風土と先人の豊かな感性と人間性に溢れた創作作品を体感し、自らの創作活動の糸口とし、糧としたい。
(1)散文制作の基本的なことを学び、郷土茨城の代表的な作家の作品を鑑賞し、創作の動機、作品の成立背景、感動の中心、読解と分析鑑賞。(2)実際に私小説の創作と相互批評。

到達目標 文芸創作の基本的な情報収集力や構成力を高め自立した人間として社会生活を営むことが出来ます。
郷土の先人たちの創作作品に触れ、文芸創作を身近に感じ、読解力や鑑賞能力が身に付き郷土愛を深めることができます。
各自それぞれが創作することによって、文章表現をするための感性と想像力をみがくことが出来、社会人としてのコミュニケーション能力が身に付きます。

学位授与の方針 【表現文化学科】
 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 散文の創作に当たって(長塚節の観点から)
 - 1、感性 2、言語習慣 3、発想・着想
- 02 長塚節の作品から 「疵のあと」
- 03 創作
 - 各自が、それぞれのテーマにそって創作活動を行う。
- 04 創作
 - 各自が、それぞれのテーマにそって創作活動を行う。
- 05 創作・推敲
 - 各自が、それぞれのテーマにそって創作活動を行う。
 - 創作した作品について推敲する。
- 06 下村千秋の作品から 「旱天実景」「鬼退治」
- 07 創作
 - 各自が、それぞれのテーマにそった創作活動を行う。

- 08 創作
各自が、それぞれのテーマにそった創作活動を行う。
- 09 創作・推敲
各自が、それぞれのテーマにそった創作活動を行う。
創作した作品について推敲する。
- 10 上野壮夫の作品から 「故郷の河」 「風・故郷」
- 11 上野壮夫の作品から 「野火」
- 12 創作
各自が、それぞれのテーマにそった創作活動を行う。
- 13 創作
各自が、それぞれのテーマにそった創作活動を行う。
- 14 龍胆寺雄の作品から 「八柱神社の秘仏」
- 15 創作物の整理・まとめ
自己評価、相互評価。

授業時間 【事前学修】

外の学修 創作のための情報の収集と整理。図書館等での調べ学習。
課題創作のための主題・構成・表現等についての構想。課題図書を読む。

【事後学修】

課題創作文等の推敲。課題図書並びに名作を文庫本等で読む。
学修の目安は合わせて2時間程度とする。

-
- 評価方法 (1) 受講態度(30%)
(2) 宿題や提出物(30%)
(3) 創作案(40%)
創作物の評価は、主題(40%) 構成(30%) 表現(30%)

アクティブラーニング 私小説創作のために能動的に「自分史年表」を制作する。
「自分史年表」から一部分を取りあげ、そのことを核として創作する。
個別に質疑応答しながら進める。相互評価。

フィードバック 個別に質疑応答。
提出物は、総てコメントを付し返却する。

実務経験

教科書 茨城の近代文学逍遙（小野孝尚著 泊船堂）ISBN978-4-904389-17-1 適宜プリントも使用

参考書 『長塚節文学賞入選作品集』常総市教育委員会生涯学習課編 『茨城近代文学選集I～V』（常陽新聞社）星野徹他編 『霞ヶ浦と文学I～III』（常陽新聞新社）小野孝尚編 『茨城の近代詩人上・下』（筑波書林）小野孝尚著 『茨城の近代詩人群像』（茨城新聞社）小野孝尚著

備考 課題創作文については、個別に添削指導し、相互批評等を行います。
創作提出作品については、返却時に全体講評のフィードバックを行います。秀作は本人により、前に出て朗読してもらいます。学生の皆さんの積極的な授業参加を期待します。

ナンバリング	14200		科目名	身体表現創作
担当教員	長谷川 裕久			
年度	2025	年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科 <input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科 <input type="checkbox"/> こども学科
期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法 <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input type="checkbox"/> 必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択必修（卒） <input checked="" type="checkbox"/> 選択（卒） <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修（幼） <input type="checkbox"/> 必修（保） <input type="checkbox"/> 必修（音療） <input type="checkbox"/> 必修（准） <input type="checkbox"/> 必修（司） <input type="checkbox"/> 必修（上秘） <input type="checkbox"/> 必修（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択必修（保） <input type="checkbox"/> 選択（幼） <input type="checkbox"/> 選択（保） <input type="checkbox"/> 選択（司） <input type="checkbox"/> 選択（上秘） <input type="checkbox"/> 選択（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択（音療） <input type="checkbox"/> 選択（司）	

授業概要 言葉や身体を伴った舞台俳優の表現方法を使い、テキストに沿ってドラマを表現する。

到達目標 (1)自らの身体を使ってテキストの内容・テーマを表現できる。
(2)グループディスカッションを通して稽古を行い、会話劇を演じることができる。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 シアターゲームをつかった身体のコミュニケーション1 二人でゲーム
- 02 シアターゲームをつかった身体のコミュニケーション2 皆でゲーム
- 03 グループ即興1 ポージングによる集団イメージ
- 04 グループ即興2 人間以外のものになる
- 05 俳優のエチュード1 一言だけの会話
- 06 俳優のエチュード2 指示詞だけの会話
- 07 無言劇を創作し演じる ゲーム「サイレントシチュエーション」を演じる
- 08 ミニマムな演劇を創作し演じる 会話の少ないショートショートを創作する
- 09 動くこと・アクション1 アクションシーンを想定し、演じてみる。
- 10 動くこと・アクション2 見えないものを想定したアクション(自転車に乗る、縄跳びをする、一本橋を渡る、など)
- 11 クリエイション1 一人芝居の創作
- 12 クリエイション2 二人芝居の創作
- 13 クリエイション3 三人以上のシーンの創作
- 14 クリエイション4 別々に創作したシーンを構成して一つの作品を創る。
- 15 講評 シナリオの修正

授業時間 【事前学修】

外の学修 授業時間以外でも、継続して身体の訓練を行う。テキストの読みを調べる。音読をする。学修の目安は2時間程度とする。

【事後学修】

創作にあたりその日の決定事項は、次の授業までにきちんと整理しておくこと。劇場や映像資料等で舞台作品に積極的に触れる。学修の目安は1時間程度とする。

評価方法 授業への取り組み（40%）課題の発表（30%）実技による定期試験（30%）

アクティブラーニング ブレインストーミング ライティングディスカッション コラボレイティブ・ライティング クリエイティブ・セッション 映像活用学習

フィードバック 創作されるシナリオ、その舞台発表について、全体での講評を行う。

実務経験 ○ 公共劇場での劇作・演出・俳優の経験を生かして実践的に指導を行う。

教科書 なし

参考書 適時、指定します。

備考 発表に関しては全体講評を授業中に行います。

授業は動きやすい服装で臨むこと。

ナンバリング	14242		科目名	日本語表現
担当教員	金子 未佳			
年度	2025	年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科 <input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科 <input type="checkbox"/> こども学科
期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input type="checkbox"/> 必修(卒) <input type="checkbox"/> 選択必修(卒) <input checked="" type="checkbox"/> 選択(卒) <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修(幼) <input type="checkbox"/> 必修(司) <input type="checkbox"/> 選択必修(保) <input checked="" type="checkbox"/> 選択(上秘) <input type="checkbox"/> 必修(保) <input type="checkbox"/> 必修(上秘) <input type="checkbox"/> 選択(幼) <input checked="" type="checkbox"/> 選択(上秘メ) <input type="checkbox"/> 必修(音療) <input type="checkbox"/> 必修(上秘メ) <input type="checkbox"/> 選択(保) <input type="checkbox"/> 選択(音療) <input type="checkbox"/> 必修(准) <input type="checkbox"/> 選択必修(幼) <input type="checkbox"/> 選択(司)	

授業概要 正しく、わかりやすい日本語表現の技術を身に付けるため、「読む」「書く」を重視した講義と演習を行います。
敬語の正しい用法を学びます。レポート及び小論文の作成と実践を行います。

到達目標 (1)正確で分かりやすい文章表現力が身に付きます。
(2)社会人としてふさわしい、正しい敬語表現が身に付きます。
(3)論理的な文章を書くことができます。
(4)基礎的な校正記号の使い方を習得できます。

学位授与 【表現文化学科】
の方針 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス、間違い探し、課題「この授業を受講した理由について」
- 02 「正しい日本語」とは、5W1H、「誤りやすい語句」、課題「どうしてもやめられない私の癖」
- 03 小テスト(1)、語句や意味の重複を避ける、名詞と動詞を正しく使う、「語彙力」を高める
- 04 小テスト(2)、敬語と文末表現を正しく使う
- 05 小テスト(3)、投稿文の書き方
- 06 投稿文を書く(1)『茨城新聞』「県民の声」に投稿する
- 07 投稿文を書く(2)『茨城新聞』「ワイドひろば』に投稿する
- 08 校正記号の使い方
- 09 校正記号を使って文章を直す(1) (タテ組)
- 10 校正記号を使って文章を直す(2) (ヨコ組)
- 11 「お薦めの一冊」を書く
- 12 「お薦めの一冊」個別発表・投票・講評
- 13 手紙の書き方・手紙を書く

14 レポート・小論文の書き方

15 正しい引用と出典の書き方

授業時間 【事前学修】

- 外の学修
- ・新聞や雑誌を読む際、文章表現に注意を払うこと。
 - ・課題のテーマを決めておくこと。 (2時間)

【事後学修】

- ・授業の内容（敬語表現、校正記号など）を整理し、自分なりに課題を決めて事後学修を行う。
- ・添削された課題を清書し、感想を記入する。 (2時間)

評価方法 小テスト3回（授業の理解を確認するためのもの）(30%)、課題（提出物・発表）・授業への取り組み(40%)、期末レポート(30%)

レポートの評価基準

- 1 字数を守ることができている。(10%)
- 2 誤字脱字がなく、表現が適切である。(20%)
- 3 内容がテーマに即して適切である。(20%)
- 4 論理的にわかりやすく考察している。(30%)
- 5 引用文献や参考文献を正しく記載している。(20%)

アクティブラーニング ミニッツペーパー、プレゼンテーション

フィードバック ミニッツペーパーへの応答。

バック 小課題の添削や授業の取り組みに関しての個別助言及び全体講評。

実務経験

教科書 日本エディタースクール編『校正記号の使い方 第2版 タテ組・ヨコ組・欧文組』（日本エディタースクール、2007）
共同通信社編『記者ハンドブック 第14版 新聞用字用語集』（共同通信社、2022）

参考書 なし 授業中に適宜プリントを配布します。

備考 自ら考えることを求めます。

「新聞記事を書く」「お薦めの一冊」は個別発表・投票を行い、講評します。

「投稿文」は『茨城新聞』に投稿します。投稿は任意ですが、多数の投稿を望みます。

小テストや授業内の課題に関しては、個別に助言を行い、全体共有することで、より理解を深めます。

課題は締め切り厳守です。提出期限を過ぎた場合、原則添削指導は行いません。

課題の未提出が1回でもあった場合、単位を出さないことがありますので注意してください。

ナンバリング	15200		科目名	プレゼンテーション演習		
担当教員	小松崎 浩司					
年度	2025		年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科	<input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科 <input type="checkbox"/> こども学科
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年		単位	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input type="checkbox"/> 必修(卒) <input type="checkbox"/> 選択必修(卒) <input checked="" type="checkbox"/> 選択(卒) <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修(幼) <input type="checkbox"/> 必修(保) <input type="checkbox"/> 必修(音療) <input type="checkbox"/> 必修(准)	<input type="checkbox"/> 必修(司) <input type="checkbox"/> 必修(上秘) <input type="checkbox"/> 必修(上秘メ) <input type="checkbox"/> 選択必修(幼)	<input type="checkbox"/> 選択必修(保) <input type="checkbox"/> 選択(幼) <input type="checkbox"/> 選択(保) <input type="checkbox"/> 選択(司)	<input checked="" type="checkbox"/> 選択(上秘) <input checked="" type="checkbox"/> 選択(上秘メ) <input type="checkbox"/> 選択(音療)

授業概要 プrezentationの意義、目的、内容、すすめ方、ツールの活用などについて学び、特に口頭表現・身体表現を中心に演習を行っていきます。また社会人として身につけていきたい姿勢を学んでいきます。

到達目標 (1)アジェンダセッティングの必要性を理解します。
(2)ターゲットオーディエンスを意識するようになります。
(3)ストーリー展開を考えるようになります。
(4)オンラインプレゼンテーション法ができるようになります。
(5)プレゼンテーションの集大成として、口頭だけでなくプレゼンテーションソフトとボディランゲージや道具を使った多角的なプレゼンテーションができるようになります。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 イントロダクション：本科目の進め方
- 02 プrezentationソフトを用いないプレゼンテーション（多角的なプレゼンテーション）
- 03 効果的なプレゼンテーションソフトの使い方（映像で効果的なプレゼンテーションを観察する）
- 04 アジェンダセッティング、ターゲットオーディエンス、パーソナルスペース
- 05 学外授業（演習を行うための取材1）
- 06 学外授業（演習を行うための取材2）
- 07 ストーリー展開を考える。(1)
- 08 ストーリー展開を考える。(2)
- 09 オーディエンスを意識したプレゼンテーション(1)
- 10 オーディエンスを意識したプレゼンテーション(2)
- 11 最終発表準備(1)（プレゼンテーションの集大成）
- 12 最終発表準備(2)（プレゼンテーションの集大成）
- 13 最終発表(1)（プレゼンテーションの集大成）

14 最終発表(2) (プレゼンテーションの集大成)

15 社会人になった際のプレゼンテーションの役割 (プレゼンテーションの集大成)

授業時間 【事前学修】

外の学修 プrezentationのスキルを身につけるためには、「いいプレゼンテーション」を鑑賞することも大事です。

【事後学修】

演習科目ですので課題を適宜課します。課題を通じて理解を深め、知識や技術を習得してください。

学びは決して一人で行うことだけでなく、履修者同士或いは担当教員に相談、議論、協力し合うことで、獲られるものもあります。互いに理解を深めてください。

本科目を通して復習に合計30時間程度の授業時間外の学習が必要となります。

評価方法 授業への取り組み（含振り返りフォーム）(50%)、課題(50%)

※課題の未提出・未発表・遅延が一度でもあった場合、単位を出さないことがあります。

アクティブラーニング ICTを活用した学習です。自ら考えることを求めます。自ら作業を行ってもらいます。グループでディスカッションを行ってもらいます。履修者全員の前で発表してもらいます。

フィードバック Microsoft Formsを用いて、授業の振り返りを行います。質問に対する返答は次の授業開始時に質問者を伏せたかたちで全体共有または質問者に直接行います。
また、課題に対して個別に助言を行うことで、より理解を深めてもらいます。

実務経験 ○ 民間での研修講師としての経験を活かしたプレゼンテーション実践スキル及びキャリアカウンセラーとして学習・活用してきた社会心理学、社会学的理論を織り交ぜながら本科目を授業展開します。

教科書

参考書

備考

- ・内容によって教室、コンピュータ演習室を使い分けます。
- ・資料はTeamsで配付します。
- ・毎回PCまたはタブレットを持参してください。
- ・2コマ程度学外での授業に置き換える場合があります。
- ・演習科目ですので、全回出席してください。
- ・やむを得ない理由で欠席する際は、担当教員およびグループワーク時はグループメンバーに欠席する旨を授業開始前までに連絡してください。

ナンバリング	15243		科目名	プロジェクト演習		
担当教員	石井 純一					
年度	2025		年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科	<input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科 <input type="checkbox"/> こども学科
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年		単位	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input type="checkbox"/> 必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択必修（卒） <input checked="" type="checkbox"/> 選択（卒） <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修（幼） <input type="checkbox"/> 必修（保） <input type="checkbox"/> 必修（音療） <input type="checkbox"/> 必修（准）	<input type="checkbox"/> 必修（司） <input checked="" type="checkbox"/> 必修（上秘） <input type="checkbox"/> 必修（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択必修（幼）	<input type="checkbox"/> 選択必修（保） <input type="checkbox"/> 選択（幼） <input type="checkbox"/> 選択（保） <input type="checkbox"/> 選択（司）	<input type="checkbox"/> 選択（上秘） <input checked="" type="checkbox"/> 選択（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択（音療） <input type="checkbox"/> 選択（司）

授業概要 現実社会の課題解決（プロジェクト）に挑戦します。「学内での座学」と「学外者との対話など」を繰り返すことで、専門的知識や教養、リーダーシップ力を高度に統合しながら、仲間と一緒に課題解決に立ち向かう力を獲得していきます。

到達目標 1. グループワークを行うことでコミュニケーション能力や企画調整力が身に付きます。
2. 茨城の魅力を探求し、外部に発信することで表現力が身に付きます。
3. 自分の在り方・生き方を考える契機になります。

学位授与 【表現文化学科】
の方針 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 プロジェクト演習で身に付けてもらいたいこと
- 02 茨城の魅力を探求し、外部に発信することで表現力が身に付きます。
- 03 魅力に関するテーマ設定・グループ分け
- 04 本学図書館等でテーマに沿って調査（1）
- 05 本学図書館棟でテーマに沿って調査（2）
- 06 調査したことをまとめる（1）
- 07 調査したことをまとめる（2）
- 08 オンラインによる外部の方との意見交換（1）
- 09 意見交換を受けての調査内容の修正
- 10 オンラインによる外部の方との意見交換（2）
- 11 発表原稿及び発表資料の作成（1）
- 12 発表原稿及び発表資料の作成（2）
- 13 プロジェクト演習発表会予行
- 14 プロジェクト演習発表会（外部の方に見ていただく）

授業時間 【事前学修】

- 外の学修
- ・パワーポイントを活用した発表になるので、そのスキルを各自で身に付けおきましょう。
 - ・授業以外でもグループで散策することや、調査したりなどフィールドワークを行います。
 - その際の視察場所などは、こちらで紹介します。 (1時間)

【事後学修】

- ・演習で得たことで疑問に思ったことなどは、本学図書館で司書の先生のレファレンスを受けて調べるようにしてください。調べたことは、次の演習に生かすようにしてください。 (1時間)

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義への取り組み（グループワークなど） 20% ・レポートや課題への取り組み（提出） 30% ・プロジェクト演習発表会における発表内容 50%
------	--

アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の学修における調査をノートにまとめておく。 ・講義の中で、様々なグループワーク（討議・発表・説明）を行う。 ・グループでテーマ設定を行いパワーポイントを用いて発表する。
------------	---

フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・演習後に提出してもらうレポート（感想や意見）によって学んだことを定着させます。 ・提出物については、教員のコメントを記入し返却します。
---------	---

実務経験	<input checked="" type="radio"/> ○ 高等学校国語科教師としての経験から「話すこと・聞くこと」の指導を今回の演習に生かします。さらに、教育行政経験から、そこで知己を得た本県の人材を活用することで、受講生に社会性を身に付けてもらいます。
------	---

教科書	課題解決力と倫理的思考力が身に付くプロジェクト学習の基本と手法 鈴木敏恵 教育出版
-----	--

参考書	授業内で指示します。
-----	------------

備考	グループ活動を取り入れた演習となりますので、積極的に参加するには、お互いの意見を尊重しながら聞くということを大事にしてください。そのためには、まず自分の考えを持つこと、相手とどこが同じでどこが異なるのかに注意を払って聞いてください。まずは幼児教育に関する書籍については授業内でも紹介しますが、本校の図書館を訪れ、司書の先生から茨城の魅力に関する書籍についてレファレンスを受けノートにメモしてください。
----	--

ナンバリング	12242	15242	科目名	人間関係論	
担当教員	辻 京子				
年度	2025		年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年		単位	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	
区分	<input type="checkbox"/> 必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択必修（卒） <input checked="" type="checkbox"/> 選択（卒） <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修（幼） <input type="checkbox"/> 必修（保） <input type="checkbox"/> 必修（音療） <input type="checkbox"/> 必修（准）	<input type="checkbox"/> 必修（司） <input type="checkbox"/> 必修（上秘） <input type="checkbox"/> 必修（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択必修（幼） <input type="checkbox"/> 選択（保） <input type="checkbox"/> 選択（司）	<input type="checkbox"/> 選択必修（保） <input type="checkbox"/> 選択（幼） <input type="checkbox"/> 選択（保） <input type="checkbox"/> 選択（上秘） <input checked="" type="checkbox"/> 選択（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択（音療） <input type="checkbox"/> 選択（司）
授業概要	集団内での円滑な人間関係構築のためのコミュニケーション手法を、ディスカッションとグループワークを通して学習する。ねらいは次の2点。 (1)コミュニケーションとは何かを把握できる。 (2)社会生活で必要なコミュニケーションを理解し、活用できる。				
到達目標	(1)コミュニケーションの基本的理論を習得できる。 (2)組織内での円滑な人間関係を構築し、社会人として協和することができる。				
学位授与 の方針	【表現文化学科】 <input type="checkbox"/> 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。 <input type="checkbox"/> 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。				
【こども学科】	<input type="checkbox"/> 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。 <input type="checkbox"/> 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。				
授業計画・内容	01 オリエンテーション・講義概説・評価説明など 02 人類と情報との関わり 03 人はなぜ群れるのか 04 集団と文化 05 組織とは 06 組織の目的と組織構造 07 人間関係を円滑にする諸条件 08 生産性を上げるためのコミュニケーション 09 モチベーションを上げるためのコミュニケーション 10 ノンバーバル・コミュニケーション 11 仕草と印象 12 組織とダイナミックス 13 コンフリクトとは 14 問題解決のためのコミュニケーション				

授業時間 【事前学修】

- 外の学修
- (1) 予習として次回の授業内容を確認する(毎回1時間)
 - (2) 日々の生活の中で実践し、情報の収集をする(毎回1時間)
 - (3) レポート課題(3回、5時間×3)

【事後学修】

- (1) 授業内で理解できなかった事項の復習(毎回1時間)
- (2) レポート課題(3回、5時間×3)

評価方法 定期試験は実施しない。

授業への積極的参加(50%)、グループへの貢献度(20%)、レポート(30%)を総合的に評価する。

授業時間数1/3以上の欠席者は評価の対象とならない。

レポートの評価基準

- 1.字数・行数等の形式、提出期限を守ることができる(10%)
- 2.誤字脱字がなく、記述表現が適切である(10%)
- 3.内容が適切である(30%)
- 4.論理的である(20%)
- 5.深い考察である(30%)

アクティブラーニング グループワーク、ペアワーク

フィードバック リフレクション・シートへのコメント

実務経験 ○ 企業での秘書業務経験を活かし、社会生活に必要なマナーについて、講義を行う。

教科書 「組織を動かすコミュニケーション力」高橋真知子著 実教出版 ISBN 978-4407319910 1,944円 (本体:1,800円)

参考書 なし

備考

ナンバリング	11251	14251	科目名	図書館活動演習			
担当教員	小松崎 浩司						
年度	2025		年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2		学科	<input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科 <input type="checkbox"/> こども学科
期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年		単位	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4		授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修（卒）	<input type="checkbox"/> 必修（幼）	<input type="checkbox"/> 必修（司）	<input type="checkbox"/> 選択必修（保）	<input checked="" type="checkbox"/> 選択（上秘）	
		<input type="checkbox"/> 選択必修（卒）	<input type="checkbox"/> 必修（保）	<input type="checkbox"/> 必修（上秘）	<input type="checkbox"/> 選択（幼）	<input checked="" type="checkbox"/> 選択（上秘メ）	
		<input checked="" type="checkbox"/> 選択（卒）	<input type="checkbox"/> 必修（音療）	<input type="checkbox"/> 必修（上秘メ）	<input type="checkbox"/> 選択（保）	<input type="checkbox"/> 選択（音療）	
		<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 必修（准）	<input type="checkbox"/> 選択必修（幼）	<input checked="" type="checkbox"/> 選択（司）		

授業概要 図書館の利用法および世の中にはどのような学問分野が存在するかを俯瞰します。例として日本の公立図書館や学校図書館の多くで採用されている「日本十進分類法」に概ね沿って学びます。

数回ごとに課題を出し、個人で課題解決方法を探ることで、どのような学術分野があるのかを理解します。

到達目標 (1)図書館を活用できるようになります。(2)どのような学問分野があるのかを理解できます。(3)どのような情報資源が刊行されているかを理解できます。

学位授与【表現文化学科】

- の方針 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション（授業の進め方、アンケート）
- 02 「日本十進分類法」とは？ —図書館を利用しやすくするための最も手っ取り早い方法—
- 03 哲学、思想とは？ —NDC1類① (10-13)について—
- 04 心理学、倫理学とは？ —NDC1類② (14, 15)について—
- 05 心理学、倫理学とは？ —NDC1類② (14, 15)について—
- 06 歴史（日本史）とは？ —NDC2類① (20, 21)について—
- 07 歴史（日本史、東洋史）とは？ —NDC2類② (20, 21, 22)について—
- 08 歴史（西洋史、新世界史）とは？ —NDC2類③ (23-27)について—
- 09 伝記とは？ —NDC2類④ (28)について—
- 10 地理（日本地理）とは？ —NDC2類⑤ (290-291)について—
- 11 地理（世界地理）とは NDC2類⑥ (292-299)について—
- 12 社会科学（政治、法律、経済、財政）とは？ —NDC3類① (30-34)について—
- 13 社会科学（統計、社会、教育、国防）とは？ —NDC3類② (35-37, 39)について—
- 14 社会科学（社会風俗、民俗学）とは？ —NDC3類③ (38)について—
- 15 自然科学（数学、物理学、化学、宇宙科学、地球科学）とは？ —NDC4類① (40-45)について—
- 16 自然科学（生命科学、医学）とは？ —NDC4類② (46-49)について—

- 17 技術・工学（土木、建築）とは？ —NDC5類①（51, 52）について—
- 18 技術・工学（機械、電気）とは？ —NDC5類②（53, 54）について—
- 19 技術・工学（海洋工学、金属工学、化学工業、製造工業）とは？ —NDC5類③（55-58）について—
- 20 家政学、生活科学とは？ —NDC5類④（59）について—
- 21 第一次産業とは？ —NDC6類①（61-66）について—
- 22 第三次産業とは？ —NDC6類②（67-69）について—
- 23 美術とは？ —NDC7類①（70-75）について—
- 24 音楽、演劇とは？ —NDC7類②（76-77）について—
- 25 スポーツ、娯楽とは？ —NDC7類③（78, 79）について—
- 26 日本語学、日本文学とは？ —NDC8・9類①（80, 81, 90, 91）について—
- 27 外国語学、外国文学とは？ —NDC8・9類②（82-89, 92-99）について—
- 28 総記とは？ —NDC0類（0）—
- 29 表現文化学科として求められる学問分野
- 30 まとめ

授業時間 【事前学修】

外の学修　　日常手に触れない学問分野も含めて「調べること」、「知識を増やすこと」の2点に特化した授業となります。日頃から新聞、ニュース、見学等自己研鑽に励んでください。
事前学習に毎回2時間程度の授業時間外の学習が必要となります。

【事後学修】

定期的に課題を課します。そのため授業時間外に課題に取り組むことを求められます。
事後学習に毎回2時間程度の授業時間外の学習が必要となります。

評価方法 課題（100%）

課題は全て電子ファイルを共有するかたちで行ってもらうので、「未提出」という概念はありませんが、内容と進捗で評価します。

アクティブラーニング クリティカル・シンキング、プロジェクト・ベースド・ラーニング、振り返りフォームによる双向型授業、ICTを活用した授業

フィードバック　　・毎回、授業終了時に出欠確認と併せて質問等を受け付けます。
・記述されたことに対して、個別に回答すべきものに対しては個別に、全体共有することが有益な場合は次回授業開始時にフィードバックします。

実務経験

教科書

参考書

備考　　・内容によって教室、図書館を使い分けます。
・資料はTeamsで配付します。
・毎回PCまたはタブレットを持参してください。
・演習科目ですので、全回出席してください。
・やむを得ない理由で欠席する際は、担当教員およびグループワーク時はグループメンバーに欠席する旨を授業開始前までに連絡してください。

ナンバリング	14342		科目名	言語文化ゼミナールI	
担当教員	小林 和子				
年度	2025	年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科 <input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科 <input type="checkbox"/> こども学科	
期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法 <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習	
区分	<input type="checkbox"/> 必修（卒） <input checked="" type="checkbox"/> 選択必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択（卒） <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修（幼） <input type="checkbox"/> 必修（保） <input type="checkbox"/> 必修（音療） <input type="checkbox"/> 必修（准）	<input type="checkbox"/> 必修（司） <input type="checkbox"/> 必修（上秘） <input type="checkbox"/> 必修（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択必修（保） <input type="checkbox"/> 選択（幼） <input type="checkbox"/> 選択（保） <input type="checkbox"/> 選択（司）	<input type="checkbox"/> 選択必修（保） <input type="checkbox"/> 選択（上秘） <input checked="" type="checkbox"/> 選択（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択（音療） <input type="checkbox"/> 選択（司）

授業概要 言語文化に関してこれまで学んできた方法と知識を実践に活かすため、各自が作家や作品、言語文化的なテーマを見つけて、それについてレジュメを作成し、口頭発表を行います。それに対してクラス全員で質疑を行い、担当教員が講評を行う授業です。なお、授業内容は学生の見つけたテーマによって変わるために過年度のものの一例を挙げておくにとどめます。ゼミナールの主体は学生自身なので毎回ディスカッションを中心に授業を展開します。

到達目標 (1) 作家や作品に真摯に向き合うことによって、そこから課題を見つけることができるようになります。 (2) 作家や作品、言語文化的なテーマについて先行文献を調べ、資料を収集し、まとめることができるようになります。 (3) まとめたことを資料化し発表することで、発信力を身に着け、コミュニケーション能力の向上を図ることができます。 (4) 発表や質疑を通して、自らを見つめ、多様な情報を分析統合し、総合的に表現する能力を身に着けることができるようになります。自分が調べ発表したことを発表後フィードバックします。

学位授与【表現文化学科】

- の方針 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション（ゼミナールとは何かを学ぶ）
- 02 教員による見本演習（レジュメの作り方、発表の仕方、問題点の見つけ方、質疑応答の仕方などについて学ぶ）例えば太宰治「葉桜と魔笛」を読む
- 03 課題を見つけるためのグループ・ディスカッションを行う。例えば「葉桜と魔笛」の最後の口笛は誰がふいたと思うか、MHは存在するのか、タイトルの意味は、など
- 04 先行文献の見つけ方を学ぶ（図書館やインターネットによる情報収集の方法、そして注意点などの確認）
- 05 個人発表（1~2人が発表、例—井伏鱒二「山椒魚」について、梶井基次郎「檸檬」について、金子みすゞの童謡についてなど）—各ゼミ発表の中で到達目標を達成するための助言を行う。
- 06 個人発表（1~2人が発表、以下同様）
担当する学生によってテーマが変わります。
- 07 個人発表
- 08 個人発表

- 09 個人発表
- 10 個人発表
- 11 個人発表
- 12 個人発表
- 13 個人発表
- 14 個人発表
- 15 ゼミ発表を通して自らが感じたことを各自がまとめる。

授業時間 【事前学修】

外の学修 図書館などで日頃から多くの文学作品を読み、テーマを見つけるために情報収集を心がける。ゼミ発表担当日一週間前にはテーマを発表し、事前にレジュメを作成し、担当教官の指導を受ける。ゼミ発表担当以外の場合もその作品を読んだりそのテーマに対して調べ、的確な質問ができるように準備しておく。学修の目安は1時間程度とする。

【事後学修】

自分の発表した内容とゼミ参加学生や担当教官の意見などをまとめて整理し、レポートにまとめる。学修の目安は1時間程度とする。

評価方法 発表内容(40%)、発表の仕方(20%)、質問・発話(20%)、小レポート (20%)
発表内容：レジュメの作り方がきちんとできているかどうか。
先行文献をきちんと調べているかどうか。問題点をきちんと見つけられているかどうか。発表の仕方：発声は適当であるかどうか。質問にきちんと答えているかどうか。進行はきちんとできているかどうか。質問・発話：他者の発表に対して的確な質問ができるかどうか。発表者の意図を正しく把握しているかどうか。
小レポート：期末に他者の発表についての感想をまとめる。

アクティブ ラーニング ゼミ発表と質問、グループディスカッション、ソクラテス問答

フィード バック レジュメの添削、自分の発表および他者の発表へのレポート

実務経験

教科書 なし

参考書 なし (個々のゼミ発表に対して適宜紹介します)

備考 ゼミですので、担当者と参加者が積極的にディスカッションすることが一番大事です。他の人の意見をしっかり聞いて、自分の考えをしっかりと発言することを求めます。

ナンバリング	15300		科目名	言語文化ゼミナールII
担当教員	小林 和子			
年度	2025	年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科 <input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科 <input type="checkbox"/> こども学科
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法 <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input type="checkbox"/> 必修（卒） <input checked="" type="checkbox"/> 選択必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択（卒） <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修（幼） <input type="checkbox"/> 必修（保） <input type="checkbox"/> 必修（音療） <input type="checkbox"/> 必修（准） <input type="checkbox"/> 必修（司） <input type="checkbox"/> 必修（上秘） <input type="checkbox"/> 必修（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択必修（保） <input type="checkbox"/> 選択（幼） <input type="checkbox"/> 選択（保） <input type="checkbox"/> 選択（司） <input type="checkbox"/> 選択（上秘） <input type="checkbox"/> 選択（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択（音療） <input type="checkbox"/> 選択（司）	

授業概要 言語文化ゼミナール I で学んだことをもとに作家や作品、もしくは言語文化的テーマを選定し、それについて自身で課題をまとめて口頭発表を行います。このゼミナールは卒業論文作成のための基礎となります。なお、ゼミ発表は参加者によって決まるため、授業内容については過年度のものを一例だけ挙げるのでとどめます。

到達目標 (1)作品と作家について深く理解することができるようになります。(2)分かりやすいレジュメが作成できるようになります。(3)参加者がよく理解できるようなプレゼンテーションの方法を身につけることができるようになります。(4) プrezentationにたいして適切な質問ができます。(5) 作品や作家と真摯に向き合うことによって、自らを見つめ、多様な情報を収集、分析、整理し、総合的に表現することができるようになります。(5) 卒業発表会に向けて準備します。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身に附けている。
 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身に附けている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション（レジュメの作り方、発表の仕方などの復習）
- 02 ゼミナール発表と卒業論文作成のための基本を学ぶ（卒論のための中間発表を行う）
- 03 課題のためのグループディスカッション
- 04 先行文献の収集と整理の仕方、引用の仕方、参考文献の書き方、論理のまとめ方を学ぶ（多様な情報を収集、分析、整理し、総合的に表現する方法を復習する）
- 05 個別発表（人数は未定、ただしなるべく90分を一人で使って卒業論文につながるような詳細な発表にしていくたい）例・「井伏鱒二『山椒魚』の改稿について」、「横光利一と花について」、「江戸川乱歩と浅草について」、など）
- 06 個別発表
- 07 個別発表
- 08 個別発表
- 09 個別発表
- 10 個別発表

- 11 個別発表
- 12 個別発表
- 13 個別発表
- 14 卒業発表会の準備
- 15 ゼミ発表のまとめと反省

授業時間 【事前学修】

外の学修 図書館などで多くの作品や資料にあたり、問題点を見つけ、情報を収集し、ノートなどに整理しておくこと。学修の目安は1時間程度とする。

【事後学修】

その作品やテーマについてより多くの資料にあたり、卒業研究につなげられるようにまとめる。学修の目安は1時間程度とする。

評価方法 レジュメと発表の仕方 (60%) ゼミでの質疑と発話 (40%)

アクティブラーニング グループディスカッション、ソクラテス問答

フィードバック ゼミ発表後レジュメの添削や発表内容質疑応答などについて個別にフィードバックを行う

実務経験

教科書 なし

参考書 なし (授業中に適宜紹介する)

備考 ゼミですので、発表者と参加者全員が自分の考えをディスカッションすることが一番大事です。授業内での発表について、その都度、フィードバックを行います。

ナンバリング	14300		科目名	身体表現ゼミナールI
担当教員	長谷川 裕久			
年度	2025	年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科 <input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科 <input type="checkbox"/> こども学科
期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法 <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input type="checkbox"/> 必修（卒） <input checked="" type="checkbox"/> 選択必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択（卒） <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修（幼） <input type="checkbox"/> 必修（保） <input type="checkbox"/> 必修（音療） <input type="checkbox"/> 必修（准）	<input type="checkbox"/> 必修（司） <input type="checkbox"/> 必修（上秘） <input type="checkbox"/> 必修（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択必修（保） <input type="checkbox"/> 選択（幼） <input type="checkbox"/> 選択（保） <input type="checkbox"/> 選択（司）

授業概要 身体表現に関してこれまで学んできたことの実践の場として、観客を想定した舞台作品を創造するのに必要なことを考え学び会得する。そのために『朗読劇』のグループミーティング、クリエイション、発表、ディスカッションを繰り返し行うことでコミュニケーションのスキルアップを目指す。

到達目標 (1)俳優の訓練方法を自分の言葉と身体で実践できるようになる。
(2)朗読劇用のテキストをディスカッションを経て、グループで上演することができるようになる。

学位授与 【表現文化学科】

- の方針 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション 身体表現の歴史と今
- 02 俳優のための身体トレーニング入門1 呼吸法と発声法
- 03 俳優のための身体トレーニング入門2 身体のコントロール
- 04 テキストの選択（理由と到達目標）戯曲を読み比べる
- 05 個人練習と個別指導 自分の弱点を自覚する
- 06 弱点を意識し、表現に工夫をする
- 07 ディスカッション1 ほかの人の演技を見て感想を述べる
- 08 他者の感想を参考にして自分の演技に取り入れる
- 09 トレーニングディスカッション2 お互いに演技の演出をつけてみる
- 10 中間発表
- 11 ディスカッション3 演出のよかつた点 不明瞭な点 工夫すべき点を話し合う
- 12 演出効果を加えての発表1 音響効果
- 13 演出効果を加えての発表2 小道具 美術
- 14 演出効果を加えての発表3 衣裳
- 15 全体発表にむけてリハーサル 相互評価

授業時間	【事前学修】
外の学修	授業時間以外でも、継続して身体の訓練を行う。テキストの読みを調べる。音読をする。学修の目安は2時間程度とする。
【事後学修】	
	創作にあたりその日の決定事項は、次の授業までにきちんと整理しておくこと。劇場やインターネット、DVD等で積極的に舞台作品にふれること。学修の目安は1時間程度とする。
評価方法	授業への取り組み（40%）課題の発表（40%）実技による定期試験（20%）
アクティブラーニング	ブレインストーミング ライティングディスカッション コラボレイティブ・ライティング クリエイティブ・セッション 映像活用学習
フィードバック	課題発表毎に個別のフィードバックを行う。
実務経験	○ 公共劇場での舞台制作・劇作・演出・俳優経験を生かし舞台芸術の歴史・制作過程・ジャンル毎の解説を具体例を踏まえて行う。
教科書	なし
参考書	授業内で発表します。

備考 授業内の発表については、そのつど全体で講評をします。
基本的に授業は動きやすい服装で臨むこと。（ジャージ、シューズ等）

ナンバリング	15300		科目名	身体表現ゼミナールII
担当教員	長谷川 裕久			
年度	2025	年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科 <input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科 <input type="checkbox"/> こども学科
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法 <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input type="checkbox"/> 必修(卒) <input checked="" type="checkbox"/> 選択必修(卒) <input type="checkbox"/> 選択(卒) <input type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修(幼) <input type="checkbox"/> 必修(司) <input type="checkbox"/> 選択必修(保) <input type="checkbox"/> 選択(上秘) <input type="checkbox"/> 必修(保) <input type="checkbox"/> 必修(上秘) <input type="checkbox"/> 選択(幼) <input type="checkbox"/> 選択(上秘メ) <input type="checkbox"/> 必修(音療) <input type="checkbox"/> 必修(上秘メ) <input type="checkbox"/> 選択(保) <input type="checkbox"/> 選択(音療) <input type="checkbox"/> 必修(准) <input type="checkbox"/> 選択必修(幼) <input type="checkbox"/> 選択(司)	

授業概要 前期『身体表現ゼミナールI』で学んできたことを深め、観客を想定した舞台作品を創造する。
『会話劇』上演の為のグループミーティング、クリエイション、発表、ディスカッションを繰り返し行うことでコミュニケーションのスキルアップを目指す。

到達目標 (1)俳優の訓練方法を自分の言葉で解説でき、ナビゲーターとして稽古場で率先できる。
(2)会話劇用のテキストを使って、集団での上演に向けて稽古を計画できる。
(3)俳優として会話劇を演じることができる。

学位授与 【表現文化学科】
の方針 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 オリエンテーション 発表用テキスト候補の選択
- 02 スタッフワークを知る1 照明
- 03 スタッフワークを知る2 音響
- 04 オペレータースタッフを体験する。
- 05 テキストの選定と読み合わせ。
- 06 グループ発表1 演者とスタッフに分かれて舞台を進行する。
- 07 ディスカッション1 演出効果を踏まえて演じやすかった点や、演じづらかった点を話し合う。
- 08 グループ発表2 演者とスタッフを入れ替え、さらに一度目の問題点を考えて短い作品を発表する。
- 09 ディスカッション2 演出効果を踏まえて演じやすかった点や、演じづらかった点を話し合う。その上で最終的な演出プランを立ててみる。
- 10 グループ発表3 最終演出プランに沿って発表する。
- 11 ディスカッション3 最初から改善された点や明確になった点など、表現の創造性について意見を述べ合う。
- 12 演出プランの決定・発表に向けての練習。決定した演出プランに沿っての通し稽古。
- 13 演出プランの変更・発表に向けての練習。実際の発表会場を想定した段取りを正確に確認する。

14 通し稽古（発表に向けての全体稽古）相互評価

15 ゲネプロ（発表に向けて本番通り行う最終稽古）講評

授業時間 【事前学修】

外の学修 授業時間以外でも、継続して身体の訓練を行う。テキストの読みを調べる。音読をする。学修の目安は2時間程度とする。

【事後学修】

創作にあたりその日の決定事項は、次の授業までにきちんと整理しておくこと。劇場やインターネット、DVD等で積極的に舞台作品にふれること。学修の目安は1時間程度とする。

評価方法 授業への取り組み（40%）課題の発表（40%）レポート（20%）

レポート評価基準

1 内容がテーマに即している（50%）

2 論理的に分かりやすく展開されている（40%）

3 誤字脱字がなく正確である（10%）

アクティブラーニング ブレインストーミング ライティングディスカッション コラボレイティブ・ライティング クリエイティブ・セッション 映像活用学習

フィードバック 課題の発表毎に個別のフィードバックを行う。

実務経験 ○ 公共劇場での劇作・演出・俳優の経験を生かして実践的に指導を行う。

教科書 なし

参考書 授業内で発表します。

備考 授業内の発表に関してはそのつど全体講評を行います。

基本的に授業は動きやすい服装で臨むこと。（ジャージ、シューズ等）

ナンバリング	16100		科目名	卒業研究		
担当教員	小林和子/金子未佳					
年度	2025		年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科	<input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科 <input type="checkbox"/> こども学科
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input checked="" type="checkbox"/> 通年		単位	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4	授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修（卒）	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修（幼）	<input type="checkbox"/> 必修（司）	<input type="checkbox"/> 選択必修（保）	<input type="checkbox"/> 選択（上秘）
	<input type="checkbox"/> 選択必修（卒）		<input type="checkbox"/> 必修（保）	<input type="checkbox"/> 必修（上秘）	<input type="checkbox"/> 選択（幼）	<input type="checkbox"/> 選択（上秘メ）
	<input type="checkbox"/> 選択（卒）		<input type="checkbox"/> 必修（音療）	<input type="checkbox"/> 必修（上秘メ）	<input type="checkbox"/> 選択（保）	<input type="checkbox"/> 選択（音療）
	<input type="checkbox"/> 選択		<input type="checkbox"/> 必修（准）	<input type="checkbox"/> 選択必修（幼）	<input type="checkbox"/> 選択（司）	

授業概要 テーマ決定についてアドバイスを行い、情報検索のしかた、論文や研究書の選び方、具体的な学術的文章の書き方などについて指導します。話し合いと進捗状況の報告により、卒業論文を完成させます。個々のテーマは個人のものですが、資料収集や入力作業などクラス全体で協力し合って完成させます。最後に完成した卒業論文を卒業研究発表会で口頭で発表します。

到達目標 自ら課題を設定し、深く調べて答えにたどり着くという作業を通して、課題探求能力を育むことができます。幅広く参考文献を調べる方法を身に付けるため、本学の図書館だけでなく地域の図書館や国会図書館や学術情報サービスなどを利用する方法も身に付けることが出来ます。学術的な文章を書く方法、論文の基本的な構成などを身に付けます。確かな日本語で自らの考えを表現する能力を養うことができます。卒論制作過程において中間発表、仮提出などを通じて学生自身が調査や資料収集や文章を見直しフィードバックを大切にしていきます。パソコンなどの正しい情報収集方法を身に付け、キーボード入力に慣れることができます。2年間表現文化学科で学んできた日本語、日本文学などの学びを集大成することが出来ます。

学位授与の方針 【表現文化学科】
 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス、今後の具体的な取り組み方と流れについて説明する。
- 02 個人卒業論文面接指導(1)テーマを選ぶための話し合いを行い、図書館で幅広い資料にあたる。
- 03 個人卒業論文面接指導(2)作家と作品の問題点、仮の題目を決定する。
- 04 個人卒業論文面接指導(3)テーマ決定の報告とそのための具体的な取り組み方について話し合う。
- 05 個人卒業論文面接指導(4)資料収集を開始する。インターネット検索の利用について解説を聞き、実践する。
- 06 個人卒業論文面接指導(5)資料収集を続ける。大学図書館及び県立図書館などを利用する。
- 07 個人卒業論文面接指導(6)資料収集を続ける。論文や雑誌記事などを収集する。
- 08 個人卒業論文面接指導(7)収集した資料の整理と分析を行う。
- 09 個人卒業論文面接指導(8)これまでの進捗に関する中間報告を行う。さらに収集した資料のリストを作成する。
- 10 個人卒業論文面接指導(9)大体の見通しにより章立てを作成する。
- 11 個人卒業論文面接指導(10)仮の章立てを提出し、今後の進め方について指導する。

- 12 個人卒業論文面接指導(11)執筆を開始する。「はじめに」の執筆を行う。
- 13 個人卒業論文面接指導(12)「はじめに」の執筆指導続き。正しい日本語表現に特に注意して執筆する。
- 14 個人卒業論文面接指導(13)「はじめに」の執筆完成。教員による指導と手直しを行う。
- 15 個人卒業論文面接指導(14)第一章の執筆開始。先行文献の引用の仕方を復習する。
- 16 個人卒業論文面接指導(15)第一章の執筆指導続き。原稿用紙の正しい使い方を心がける。
- 17 個人卒業論文面接指導(16)第一章の執筆完成。教員による指導と手直しを行う。
- 18 個人卒業論文面接指導(17)第二章の執筆開始。引用文献と自身の意見との相違を明示するよう注意する。
- 19 個人卒業論文面接指導(18)第二章の執筆続き。教員による指導と手直しを行う。
- 20 個人卒業論文面接指導(19)第二章の執筆完成。教員による指導と書き直しを行う。
- 21 個人卒業論文面接指導(20)第二章を完成させる。
- 22 個人卒業論文面接指導(21)第三章の執筆開始。推敲を重ねる。
- 23 個人卒業論文面接指導(22)第三章の執筆続き。教員による指導と手直しを行う。
- 24 個人卒業論文面接指導(23)第三章の執筆完成。教員による指導と書き直しを行う。
- 25 個人卒業論文面接指導(24)「おわりに」の執筆開始。
- 26 個人卒業論文面接指導(25)「おわりに」の完成。教員による指導と書き直しを行う。
- 27 個人卒業論文面接指導(26)引用文献及び参考文献リストを作成する。
- 28 卒業論文の仮提出を行う。教員による指導を受ける。
- 29 教員の指導により全体の修正を行う。
- 30 卒業論文の仕上げと提出。誤字脱字がないか、表記のミスや引用のミスがないかといった体裁を確認する。

授業時間 【事前学修】

外の学修 常に課題への問題意識を持ち、日常で触れる物事や本などからヒントを得て欲しいと思います。テーマとそれに関する幅広い資料にあたることを望みます。論理的な文章を書くことができるよう、普段から本や新聞をじっくり読むことを勧めます。毎回2時間を目安とします。

【事後学修】

卒業発表会に向けて卒論の内容を短くまとめ資料を作成する。2時間を目安とします。

評価方法 卒業論文への取り組み(40%)、卒業論文(60%)

評価基準：的確な先行文献を見つて引用できているかどうか。論文としての体裁をきちんと守っているかどうか。文章がきちんと書けているかどうか。自分の意見を確立できているかどうかなど。

アクティブラーニング グループディスカッション、対象とする作品やテーマに関係ある場所に行き、研究テーマを深める。

フィードバック 中間発表、卒業研究発表会を行い講評を受けます

実務経験

教科書 なし

参考書 個別の研究テーマに関する研究書などを適時紹介する。

備考 卒論制作過程の中で指導者と学生はディスカッションしながら完成の道を探ります。その中でテーマによつてはフィールドワークを課す場合もあります。作成過程の中でその都度フィードバックを行います。

ナンバリング	16100		科目名	卒業研究		
担当教員	長谷川 裕久					
年度	2025		年次	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科	<input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科 <input type="checkbox"/> こども学科
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input checked="" type="checkbox"/> 通年		単位	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4	授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必修（卒）	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修（幼）	<input type="checkbox"/> 必修（司）	<input type="checkbox"/> 選択必修（保）	<input type="checkbox"/> 選択（上秘）
	<input type="checkbox"/> 選択必修（卒）		<input type="checkbox"/> 必修（保）	<input type="checkbox"/> 必修（上秘）	<input type="checkbox"/> 選択（幼）	<input type="checkbox"/> 選択（上秘メ）
	<input type="checkbox"/> 選択（卒）		<input type="checkbox"/> 必修（音療）	<input type="checkbox"/> 必修（上秘メ）	<input type="checkbox"/> 選択（保）	<input type="checkbox"/> 選択（音療）
	<input type="checkbox"/> 選択		<input type="checkbox"/> 必修（准）	<input type="checkbox"/> 選択必修（幼）	<input type="checkbox"/> 選択（司）	

授業概要 俳優として舞台作品の創作をします。身体訓練の基礎から応用までを学び、稽古・演習の創造過程を体験し、舞台作品を発表します。

到達目標 (1) 戯曲を読解して、自主的な演技プランを立てることができます。
(2) 総合芸術である演劇作品をの様々な演出要素（衣裳、照明、音響、等）を自ら考え、スタッフワークとして実行することができます。
(3) 舞台作品を、自分の役割を認識しディスカッションを通して他者と一致協力して創造することができます。

学位授与 【表現文化学科】

の方針 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけています。
 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけています。

授業計画・内容

01 ガイダンス、発表本番までの取り組み方と流れについて説明する。

02 身体の訓練1 緊張と弛緩

03 身体の訓練2 呼吸法

04 身体の訓練3 発声法

05 身体の訓練4 立つ・座る・歩く

06 身体の訓練5 様々に歩く

07 身体の訓練6 ストップモーション

08 身体の訓練7 スローモーション

09 身体の訓練8 スケッチと ポージング

10 戯曲のプレゼンテーションと選定

11 戯曲についてのディスカッション

12 本読み1 役替わりで読む

13 本読み2 (仮) キャスティングでの読み合わせ

14 本読み3 最終キャスティングで読み合わせ

15 部分稽古1 稽古予定立案

- 16 部分稽古2 パート分割 大道具プラン立案
17 部分稽古3 音響プランの立案
18 部分稽古4 小道具プランの立案
19 部分稽古5 音響プラン立案 小道具プラン立 衣装・メイクプラン立案
20 部分稽古6 音響プラン修正 小道具プラン修正 衣装・メイクプラン修正
21 通し稽古1 演出プランの確認
22 通し稽古2 戯曲の流れを読む
23 通し稽古3 緩急を考える
24 通し稽古4 台本のブラッシュアップ
25 抜き稽古 問題点のクリア
26 場当たり稽古 演出プラン総確認
27 ドレスリハーサル 衣装・メイクを付けて
28 ゲネラルプローブ 最終稽古
29 成果発表
30 まとめ 互評・講評 レポート制作
-

授業時間 【事前学修】

外の学修 自主稽古の計画を立て、身体・発声の訓練を継続して行うこと。
台詞の暗記・演技プラン立てなど個人で可能な練習は全員が揃う稽古場外で行うこと。
学習の目安は2時間程度とする。

【事後学修】

授業で練習した箇所を反復練習し、テキストをよく読んで台詞（自分・相手役）を暗記すること。学習の目安は2時間程度とする。

評価方法 授業への取り組み(60%) 課題の発表(40%)

アクティブラーニング ブレインストーミング ライティングディスカッション コラボレイティブ・ライティング クリエイティブ・セッション 映像活用学習

フィードバック 課題の発表毎に個別のフィードバックを行う。

実務経験 ○ 公共劇場での劇作・演出・俳優の経験を踏まえて具体例を示しながら実践的に指導を行う。

教科書 指定しない。

参考書 戯曲、演技理論書などを用意します。

備考 授業内の発表に関してはそのつど講評を行います。
成果発表の直前は連日稽古になる予定です。
動きやすい服装を用意すること。

ナンバリング	12211	15211	科目名	図書館制度・経営論			
担当教員	小松崎 浩司						
年度	2025		年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科	<input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科	<input type="checkbox"/> こども学科
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年		単位	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義	<input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input type="checkbox"/> 必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択（卒） <input checked="" type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修（幼） <input type="checkbox"/> 必修（保） <input type="checkbox"/> 必修（音療） <input type="checkbox"/> 必修（准）	<input checked="" type="checkbox"/> 必修（司） <input type="checkbox"/> 必修（上秘） <input type="checkbox"/> 必修（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択必修（幼）	<input type="checkbox"/> 選択必修（保） <input type="checkbox"/> 選択（幼） <input type="checkbox"/> 選択（保） <input type="checkbox"/> 選択（司）	<input type="checkbox"/> 選択（上秘） <input type="checkbox"/> 選択（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択（音療） <input type="checkbox"/> 選択（司）	
授業概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説します。						
到達目標	(1)我が国の図書館に関する法制度・図書館政策について理解します。(2)我が国の図書館経営の実情について理解します。						
学位授与 の方針	<p>【表現文化学科】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。</p> <p><input type="checkbox"/> 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。</p> <p>【こども学科】</p> <p><input type="checkbox"/> 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。</p> <p><input type="checkbox"/> 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。</p> <p><input type="checkbox"/> 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。</p>						
授業計画・内容							
01	地方公共団体の仕組み						
02	公共機関・施設の経営方法						
03	図書館の組織・図書館員						
04	図書館の施設・設備						
05	図書館のサービス計画と予算の確保						
06	図書館業務・サービスの調査と評価						
07	図書館の管理形態の多様化						
08	大学図書館、学校図書館の経営						
09	国立国会図書館、専門図書館の経営						
10	図書館関連法規						
11	図書館法						
12	他館種の図書館に関する法律など						
13	図書館サービス関連法規						
14	図書館政策						
15	これからの展望						

授業時間	【事前学修】
外の学修	法制度や図書館政策を理解した上で新聞やニュース等、コラム、エッセイ等を読んだ上で答える、小レポートを適宜課しながら理解を深めていきます。毎朝、新聞（特に政治面、社会面）やニュース、ニュースサイト（玉石混淆ですので、玉と石とを見分けられる力を身に着けながら）に触れるようにしてください。 予習に合計30時間程度の授業時間外の学習が必要となります。
評価方法	定期試験(100%)
アクティブラーニング	振り返りフォームによる双方向型授業、ICTを活用した授業
フィードバック	毎回、授業終了時に出欠確認と併せて質問等を受け付けます。 記述されたことに対して、個別に回答すべきものに対しては個別に、全体共有することが有益な場合は次回授業開始時にフィードバックします。
実務経験	
教科書	吉井潤. 事例で学ぶ図書館制度・経営論. 青弓社, 2022, 210p., (事例で学ぶ図書館, 2) .
参考書	

- 備考
- ・内容によって教室、図書館を使い分けます。
 - ・資料はTeamsで配付します。
 - ・毎回PCまたはタブレットを持参してください。

ナンバリング	11211	14211	科目名	図書館サービス概論			
担当教員	小松崎 浩司						
年度	2025		年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2		学科	<input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科 <input type="checkbox"/> こども学科
期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年		単位	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4		授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input type="checkbox"/> 必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択（卒） <input checked="" type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修（幼） <input type="checkbox"/> 必修（保） <input type="checkbox"/> 必修（音療） <input type="checkbox"/> 必修（准）	<input checked="" type="checkbox"/> 必修（司） <input type="checkbox"/> 必修（上秘） <input type="checkbox"/> 必修（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択必修（幼）	<input type="checkbox"/> 選択必修（保） <input type="checkbox"/> 選択（幼） <input type="checkbox"/> 選択（保） <input type="checkbox"/> 選択（司）	<input type="checkbox"/> 選択（上秘） <input type="checkbox"/> 選択（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択（音療） <input type="checkbox"/> 選択（司）	
授業概要	図書館サービスの考え方と構造の理解を図り、資料提供、情報提供、連携・協力、課題解決支援、障害者・高齢者・多文化サービス等の各種のサービス、著作権、接遇・コミュニケーション等の基本を解説します。						
到達目標	(1)図書館で提供されている各種サービスについて理解します。 (2)図書館でサービスを提供するものとして著作権、接遇・コミュニケーションの基本を理解します。						
学位授与 の方針	【表現文化学科】 <input type="checkbox"/> 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。 <input type="checkbox"/> 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。 <input type="checkbox"/> 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。 <input type="checkbox"/> 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。 【こども学科】 <input type="checkbox"/> 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。 <input type="checkbox"/> 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。						
授業計画・内容							
01	図書館サービスの考え方と構造						
02	図書館サービスの変遷						
03	資料提供サービスの基本						
04	図書館サービスの連携・協力						
05	公立図書館と大学図書館の連携						
06	集会活動						
07	課題解決型支援サービス						
08	障害者サービス						
09	高齢者サービスと多文化サービス						
10	住民・地域活動支援						
11	国立国会図書館、専門図書館のサービス						
12	大学図書館、学校図書館のサービス						
13	接遇、コミュニケーション、広報						
14	図書館サービスと著作権						
15	これからの展望						

授業時間	【事前学修】
外の学修	毎回教科書を1回分ずつ進んでいきます。 受講前に教科書の該当章を読んでから臨むようにしてください。 予習に合計30時間程度の授業時間外の学習が必要となります。
【事後学修】	授業では章内的一部を取り上げてその部分を掘り下げて行います。それ以外の部分は復習で補ってください。 授業内で取り上げなかった内容についてもテキストに掲載された内容については学んだことと見做して進めていきレポートや試験の範囲に含まれます。 復習に合計30時間程度の授業時間外の学習が必要となります。
評価方法	定期試験(100%)
アクティブラーニング	振り返りフォームによる双方向型授業、ICTを活用した授業
フィードバック	毎回、授業終了時に出欠確認と併せて質問等を受け付けます。 記述されたことに対して、個別に回答すべきものに対しては個別に、全体共有することが有益な場合は次回授業開始時にフィードバックします。
実務経験	
教科書	吉井潤. 事例で学ぶ図書館サービス概論. 青弓社, 2022, 268p., (事例で学ぶ図書館, 1).
参考書	

- 備考
- ・内容によって教室、図書館を使い分けます。
 - ・資料はTeamsで配付します。
 - ・毎回PCまたはタブレットを持参してください。

ナンバリング	12211	15211	科目名	情報サービス演習			
担当教員	金子 未佳						
年度	2025		年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2		学科	<input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科 <input type="checkbox"/> こども学科
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年		単位	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4		授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修（卒）	<input type="checkbox"/> 必修（幼）	<input checked="" type="checkbox"/> 必修（司）	<input type="checkbox"/> 選択必修（保）	<input type="checkbox"/> 選択（上秘）	
		<input type="checkbox"/> 選択必修（卒）	<input type="checkbox"/> 必修（保）	<input type="checkbox"/> 必修（上秘）	<input type="checkbox"/> 選択（幼）	<input type="checkbox"/> 選択（上秘）	
		<input type="checkbox"/> 選択（卒）	<input type="checkbox"/> 必修（音療）	<input type="checkbox"/> 必修（上秘）	<input type="checkbox"/> 選択（保）	<input type="checkbox"/> 選択（音療）	
		<input checked="" type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 必修（准）	<input type="checkbox"/> 選択必修（幼）	<input type="checkbox"/> 選択（司）		
授業概要		利用者に適切な情報を提供できるよう、情報探索検索サービスの役割を詳しく解説するとともに、実践的な技能習得をめざす演習を行う。					
到達目標		(1)情報資源の探し方が学べます。 (2)適切な情報提供サービスを行い、図書館利用者の学習を支援できる力がつきます。 (3)POPの作成と展示方法を学べます。					
学位授与		【表現文化学科】					
の方針		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。 <input type="checkbox"/> 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。 <input type="checkbox"/> 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。					
【こども学科】		<input type="checkbox"/> 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。 <input type="checkbox"/> 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。					

授業計画・内容

- 01 ガイダンス、情報サービスとは何か
- 02 図書館における情報サービス
- 03 情報資源とレファレンスコレクション
- 04 レファレンス受付とインタビュー技法
- 05 情報資源の探し方
- 06 ウェブページ・ウェブサイトの探し方
- 07 図書情報の探し方
- 08 図書情報を探す
- 09 雑誌・雑誌記事の探し方
- 10 雑誌・雑誌記事を探す
- 11 06～10までの振り返り
- 12 新聞記事の探し方
- 13 新聞記事を探す
- 14 言葉・事柄・統計の探し方
- 15 言葉・事柄・統計を探す
- 16 歴史・日時の探し方

- 17 歴史・日時を探す
 18 12~17までの振り返り
 19 地理・地名・地図の探し方
 20 地理・地名・地図を探す
 21 人物・企業・団体、法令・判例・特許の探し方
 22 人物・企業・団体、法令・判例・特許を探す
 23 レファレンスPOPを作成する(1)レファレンスブックを選ぶ、書く内容を考える
 24 レファレンスPOPを作成する(2)レファレンスPOP作り、展示作業
 25 レファレンスインタビューの実践(1)図書館員（2年生）、利用者（1年生）
 26 レファレンスインタビューの実践(2)図書館員（1年生）、利用者（2年生）
 27 郷土資料の探し方
 28 郷土雑誌を活用する
 29 郷土雑誌を探す
 30 19~22、27~30までの振り返り
-

授業時間 【事前学修】

- 外の学修
- ・複数の館種の異なる図書館へ行き、どのような情報サービスが行われているかを調べるとともに、実際に情報サービスを受ける側を体験する。
 - ・教科書に目を通しておく。
- (約2時間)

【事後学修】

- ・未提出分の演習課題に取り組む（近隣の公共図書館の図書資料も使用すること）。
 - ・授業で学んだ「探し方」を、図書館やインターネットで繰り返し実践すること。
- (約2時間)

評価方法 課題（提出物・発表・展示）・授業への取り組み（60%）、最終課題（40%）

アクティブラーニング グループワーク、クリエイティブ・セッション

フィードバック 授業内に課した発表や提出物についての個別助言及び全体講評のフィードバック。

実務経験 ○ 公共図書館及び専門図書館での図書館司書としての実務経験を活かし、館種別の図書館の役割や図書館司書の職務等、実践的指導を行う。

教科書 原田智子編著、江草由佳・小山憲司著『四訂 情報サービス演習 現代図書館情報学シリーズ7』（樹木房、2025）

参考書 浅野高史+かながわレファレンス探検隊著『図書館のプロが教える〈調べるコツ〉誰でも使えるレファレンス・サービス事例集』（柏書房、2006）
 福井県立図書館著『100万回死んだねこ 覚え違いタイトル集』（講談社文庫、2024）

備考 演習課題の提出期限を守ってください。短大図書館がない図書資料は、近隣の公共図書館を利用し、課題に取り組む必要があります。
 演習課題の未提出が1回でもあった場合、単位を出さないことがありますので注意してください。
 グループ活動を取り入れた授業を行うので、積極的に参加してください。

ナンバリング	11211	14211	科目名	図書館情報資源概論			
担当教員	小松崎 浩司						
年度	2025		年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2		学科	<input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科 <input type="checkbox"/> こども学科
期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年		単位	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4		授業方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input type="checkbox"/> 必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択（卒） <input checked="" type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修（幼） <input type="checkbox"/> 必修（保） <input type="checkbox"/> 必修（音療） <input type="checkbox"/> 必修（准）	<input checked="" type="checkbox"/> 必修（司） <input type="checkbox"/> 必修（上秘） <input type="checkbox"/> 必修（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択必修（幼）	<input type="checkbox"/> 選択必修（保） <input type="checkbox"/> 選択（幼） <input type="checkbox"/> 選択（保） <input type="checkbox"/> 選択（司）	<input type="checkbox"/> 選択（上秘） <input type="checkbox"/> 選択（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択（音療） <input type="checkbox"/> 選択（司）	
授業概要	印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、グループで活動する回と講義の回を織り交ぜながら進めていきます。						
到達目標	図書館情報資源（資料）に関する知識を理解し、将来司書として図書館に勤務した際、或いは一図書館利用者となった際、図書館内にあるあらゆる情報資源にアクセスできるスキルの礎を築きます。						
学位授与の方針	<p>【表現文化学科】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。</p> <p><input type="checkbox"/> 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。</p> <p><input type="checkbox"/> 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。</p> <p>【こども学科】</p> <p><input type="checkbox"/> 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。</p> <p><input type="checkbox"/> 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。</p> <p><input type="checkbox"/> 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。</p>						
授業計画・内容							
01	図書館情報資源とは						
02	印刷資料の類型と特質						
03	非印刷資料と図書館情報資源の歴史						
04	電子資料、ネットワーク情報資源の類型と特質						
05	地域資料、行政資料（政府刊行物）、灰色文献						
06	情報資源の生産（出版）と流通						
07	図書館業務と情報資源に関する知識						
08	コレクション形成の理論						
09	コレクション形成の方法						
10	各分野の情報資源とその特性①						
11	各分野の情報資源とその特性②						
12	資料の受入・除籍・保存・管理						
13	レコード、ボードゲーム、貴重資料などの取り扱い						
14	専門図書館の事例						
15	これからの展望						

授業時間	【事前学修】
外の学修	毎回最後に次回のテーマについて軽く述べます。その件について事前学修するように努めてください。 予習に合計30時間程度の授業時間外の学習が必要となります。
【事後学修】	
	授業内でわからないことがあった場合は、授業時間外に質問に来るか図書館にある「情報資源」を活用して学ぶようにしてください。 復習に合計30時間程度の授業時間外の学習が必要となります。
評価方法	定期試験(100%)
アクティブラーニング	図書館の活用、グループワーク、ICTを活用した授業、振り返りフォーム
フィードバック	毎回、授業終了時に出欠確認と併せて質問等を受け付けます。
	記述されたことに対して、個別に回答すべきものに対しては個別に、全体共有することが有益な場合は次回授業開始時にフィードバックします。
実務経験	
教科書	吉井潤. 事例で学ぶ図書館情報資源概論. 青弓社, 2023, 212p, (事例で学ぶ図書館, 3)
参考書	

- 備考
- ・内容によって教室、図書館を使い分けます。
 - ・資料はTeamsで配付します。
 - ・毎回PCまたはタブレットを持参してください。

ナンバリング	12211	15211	科目名	情報資源組織演習		
担当教員	小松崎 浩司					
年度	2025		年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科	<input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科 <input type="checkbox"/> こども学科
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年		単位	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input type="checkbox"/> 必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択（卒） <input checked="" type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修（幼） <input type="checkbox"/> 必修（保） <input type="checkbox"/> 必修（音療） <input type="checkbox"/> 必修（准）	<input checked="" type="checkbox"/> 必修（司） <input type="checkbox"/> 必修（上秘） <input type="checkbox"/> 必修（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択必修（幼）	<input type="checkbox"/> 選択必修（保） <input type="checkbox"/> 選択（幼） <input type="checkbox"/> 選択（保） <input type="checkbox"/> 選択（司）	<input type="checkbox"/> 選択（上秘） <input type="checkbox"/> 選択（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択（音療） <input type="checkbox"/> 選択（司）

授業概要 多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成します。
※基本的に個人で行う演習ですが、解らない点、判らない点、他の人の意見をもらいたい時等多々相談したい場面があるので、テーブルを数名の単位にまとめて行います。
※2~4コマ学外見学演習を実施予定です。

到達目標 日本のほとんどの公共図書館で採用している組織法である
(1)基本件名標目表 (2)日本十進分類法 (3)日本目録規則を演習形式で実践的に理解できます。

学位授与 【表現文化学科】
の方針 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

- 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
- 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
- 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 イントロダクション：本科目の進め方
- 02 主題分析 (BSHの理解)
- 03 基本件名標目表(1) (BSHの理解)
- 04 基本件名標目表(2) (BSHの理解)
- 05 分類とは (NDCの理解)
- 06 日本十進分類法(1) 1.NDCの基本、2.NDCの構成 (NDCの理解)
- 07 日本十進分類法(2) 1.NDCの基本、2.NDCの構成 (NDCの理解)
- 08 日本十進分類法の補助表(1.1) 1.形式区分、2.地理区分、3.海洋区分 (NDCの理解)
- 09 日本十進分類法の補助表(1.2) 1.形式区分、2.地理区分、3.海洋区分 (NDCの理解)
- 10 日本十進分類法の補助表(2.1) 1.言語区分、2.言語共通区分、3.文学共通区分 (NDCの理解)
- 11 日本十進分類法の補助表(2.2) 1.言語区分、2.言語共通区分、3.文学共通区分 (NDCの理解)
- 12 日本十進分類表総合演習 (NDCの理解)
- 13 分類記号の付与 (NDCの理解)
- 14 総合演習 (BSH、NDCの理解)
- 15 前半の振り返り

- 16 後半の進め方
17 目録規則とは(1)日本目録規則 (NCRの理解)
18 目録規則とは(2)記述総則 (NCRの理解)
19 各書誌的事項(1.1) 1.タイトルと責任表示、2.版、3.出版 (NCRの理解)
20 各書誌的事項(1.2) 1.タイトルと責任表示、2.版、3.出版 (NCRの理解)
21 各書誌的事項(2.1) 1.頒布、2.形態、3.シリーズ、4.注記、5.標準番号等 (NCRの理解)
22 各書誌的事項(2.2) 1.頒布、2.形態、3.シリーズ、4.注記、5.標準番号等 (NCRの理解)
23 逐次刊行物 (NCRの理解)
24 各種資料(1) (1)録音資料、(2)映像資料 (NCRの理解)
25 各種資料(2) (1)地図資料、(2)マイクロ資料 (NCRの理解)
26 図書館関係施設見学(1)
27 図書館関係施設見学(2)
28 図書館関係施設見学(3)
29 図書館関係施設見学(4)
30 後半の振り返り
-

授業時間 【事前学修】

外の学修 演習科目ですので課題を毎回課します。課題は何もわからない状態で臨むと、授業時間内はそれを理解するだけで終わってしまい、事後課題として次回までの宿題となってしまいます。事前に次回行う内容について調べるようにしてください。
事前学習に毎回2時間程度の授業時間外の学習が必要となります。

【事後学修】

独りよがりにならず、履修者同士で協調して互いに研鑽し合ってください。
事後学習に毎回2時間程度の授業時間外の学習が必要となります

評価方法 定期試験(100%)

アクティブ プロジェクト・ベースド・ラーニング
ラーニング

フィード 毎回、授業終了時に出欠確認と併せて質問等を受け付けます。
バック 記述されたことに対して、個別に回答すべきものに対しては個別に、全体共有することが有益な場合は次回授業開始時にフィードバックします。
また、小課題や授業内での取組に対して個別に助言を行ったり、全体共有することで、より理解を深めてもらいます。

実務経験

教科書 1. 志保田務, 高鷲忠美編著. 志保田務, 前川和子, 家瀬淳一改訂. 情報資源組織法第3版. 第一法規(2021), ISBN978-4-474-07255-8
2. もりきよし原編, 日本国書館協会分類委員会改訂. 日本十進分類法新訂10版簡易版. 日本国書館協会(2018), ISBN978-4-8204-1807-8
3. 日本国書館協会目録委員会編. 日本目録規則2018年版統合ファイル(2024年5月1日時点). 日本国書館協会, <https://www.jla.or.jp/committees/mokuroku/ncr2018/tabcid/787/Default.aspx> (参照 2024-02-12) からダウンロード

参考書 1. 日本国書館協会件名標目委員会編. 基本件名標目表第4版合冊版. 日本国書館協会(2024), ISBN978-4-8204-2400-0

備考 • 内容によって教室、図書館、コンピュータ演習室を使い分けます。
• 2コマ程度学外の図書館関連施設等を見学する授業に置き換える場合があります。
• 演習科目ですので、全回出席してください。
• やむを得ない理由で欠席する際は、担当教員およびグループワーク時はグループメンバーに欠席する旨を授業開始前までに連絡してください。
• 教科書3.『日本目録規則2018年版』は、冊子体を購入しても構いません (ISBN978-4-8204-1814-6, ¥5000, 761p.)
が、冊子体を準備できない場合は各自タブレットやPCにPDFをダウンロードして使用するか、プリントアウトして使用できる状態にしておいてください。 (15.1MB) (大学側では用意しません)

ナンバリング	12242	15242	科目名	事務管理
担当教員	周藤 亜矢子			
年度	2025	年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科 <input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科 <input type="checkbox"/> こども学科
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	単位	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input type="checkbox"/> 必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択（卒） <input checked="" type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修（幼） <input type="checkbox"/> 必修（保） <input type="checkbox"/> 必修（音療） <input type="checkbox"/> 必修（准）	<input type="checkbox"/> 必修（司） <input type="checkbox"/> 必修（上秘） <input type="checkbox"/> 必修（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択必修（保） <input type="checkbox"/> 選択（幼） <input type="checkbox"/> 選択（保） <input type="checkbox"/> 選択（司）

授業概要 上級秘書士・上級秘書士（メディカル秘書）・プレゼンテーション実務士の選択科目である。社会人として求められる「思考を論理的に言語化する文章表現、文書スキル」を、ケーススタディなどをしながらICTを用いて継続的に訓練し実践力につける学習プログラムである。ねらいは次の3点。
 (1) 考えたこと・伝えたいことを論理的に文章表現できる力を身につける。
 (2) 限られた文字数の文章に含まれている、意味を意識することができる。
 (3) 訓練を通して、社会に適用する文章や文書を作成することができる。

到達目標 (1) ブラインドタッチを最終目標に、パソコンのスムーズなタイピングをすることができる。
 (2) 概念やイメージを言語化し、文章で論理的に表現することができる。
 (3) 文書のスタイルを理解し、意味を含ませながら作成することができる。

学位授与 【表現文化学科】
の方針 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】
 1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス 授業目標と授業計画
- 02 エントリーシートの作成（現状把握）
- 03 口語から文章にまとめる（動画）
- 04 口語から文章にまとめる（音声）
- 05 文章を要約する（新聞記事から構成を考える）
- 06 文章を要約する（清書・発表）
- 07 文章にコメントをつける（新聞記事から構成を考える）
- 08 文章にコメントをつける（清書・発表）
- 09 お薦めの本について書く（構成を考える）
- 10 お薦めの本について書く（清書・発表）
- 11 ビジネス文書の仕組みと作法
- 12 ビジネス文書の作成

-
- 13 ビジネスマールの仕組みと作法
 - 14 ビジネスマールの作成
 - 15 エントリーシートの作成（まとめ）
-

授業時間 【事前学修】

外の学修 ブラインドタッチでのキーボードタイピング(2時間)、予習として次回の授業内容を確認する（1時間）、語彙力、文脈力、読解力を高めるための新聞や書籍などの活字に触れる機会を積極的に設ける（1時間）

【事後学修】

理解できなかった箇所、覚える必要がある箇所を復習する（2時間）

評価方法 定期試験は実施しない。演習への積極的参加(50%)、課題の提出（30%）、ミニツツレポート（20%）を総合的に評価する。
授業時間数1/3以上の欠席者は評価の対象とならない。

アクティブラーニング ピア・レスポンス、ケーススタディ

フィードバック 授業毎のミニツツペーパーや課題に対して、授業内でフィードバックを行う。

実務経験 ○ 大手企業にて秘書としての実務経験を活かし、実践的な授業を行う。

教科書 資料を適宜配布する

参考書 『大人のための書く全技術』齋藤孝著 KADOKAWA 2016年は本授業の参考になるため、読んでおくことを薦める。

備考 文書作成やメール作成においてパソコンを使用する。スムーズなタイピングが作業の効率化に欠かせないため、日々のトレーニングを期待する。

ナンバリング	12221	15221	科目名	秘書実務演習		
担当教員	周藤 亜矢子					
年度	2025		年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2	学科	<input checked="" type="checkbox"/> 表現文化学科 <input type="checkbox"/> こども学科
期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年		単位	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 実習
区分	<input type="checkbox"/> 必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択必修（卒） <input type="checkbox"/> 選択（卒） <input checked="" type="checkbox"/> 選択	資格関連	<input type="checkbox"/> 必修（幼） <input type="checkbox"/> 必修（保） <input type="checkbox"/> 必修（音療） <input type="checkbox"/> 必修（准）	<input type="checkbox"/> 必修（司） <input checked="" type="checkbox"/> 必修（上秘） <input type="checkbox"/> 必修（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択必修（幼）	<input type="checkbox"/> 選択必修（保） <input type="checkbox"/> 選択（幼） <input type="checkbox"/> 選択（保） <input type="checkbox"/> 選択（司）	<input type="checkbox"/> 選択（上秘） <input type="checkbox"/> 選択（上秘メ） <input type="checkbox"/> 選択（音療） <input type="checkbox"/> 選択（上秘）

授業概要 上級秘書士の必修科目である。社会人として求められる知識やスキルを、グループ学習・ICT活用・課題解決などビジネスの基礎知識を用いて総合的な実践力をつける学習プログラムである。ねらいは次の3点。
 (1) ビジネス環境において、知識と人間関係を用いながら柔軟に対応できる力を身につける。
 (2) 企業活動を理解し、協働により成果の生み出し方を学ぶ。
 (3) グループワークを通して、人との関わり方やリーダー、フォロワーの役割を理解し、自己理解を深める。

到達目標 (1) 秘書業務・ビジネス実務に必要な、基本から応用までの知識やスキルを習得できる。
 (2) 目的を達成するために、環境や状況に応じて柔軟な仕事をすることができる。
 (3) 課題を見出し、創意工夫して対応することができる

学位授与【表現文化学科】

の方針 1. 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。
 2. 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとった誠実な行動ができる。
 3. コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。
 4. 日本語やさまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。

【こども学科】

1. 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。
 2. 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。
 3. 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

授業計画・内容

- 01 ガイダンス 授業目標と授業計画
- 02 社会人基礎力と専門力
- 03 ノンバーバル（非言語）な表現 自己表現①
- 04 バーバル（言語）な表現 自己表現②
- 05 印象形成・印象操作
- 06 ノンバーバルを駆使した電話応対
- 07 電話応対 慣用的表現とメモの取り方
- 08 電話応対 苦情対応
- 09 オンラインでの伝え方 プレゼンテーション・会議
- 10 オンラインにおける対話
- 11 接遇業務の基礎 受付・取次ぎ・案内・茶菓接待・見送り
- 12 名刺の受け方と交換
- 13 日本の伝統的なもてなし 上位・下位の考え方
- 14 訪問マナー アポイントメントから訪問まで

- 15 業務における指示と報告
- 16 職場内コミュニケーション 関係構築とインフォーマルな会話
- 17 仕事の進め方の基本 PDCAサイクル
- 18 仕事の標準化 マニュアル作り・優先順位・改善
- 19 スケジュールの管理 アポイントメントから確定まで
- 20 スケジュール変更とポイント
- 21 会議・会合
- 22 ファイリング 書類・データ・名刺
- 23 慶事の知識とマナーと贈答
- 24弔事の知識とマナーと贈答
- 25 ビジネスにおけるeメールの使い方と注意
- 26 メール表現やオンラインツールでのコミュニケーション
- 27 ビジネス文書作成の基礎
- 28 ビジネス文書における慣用句
- 29 まとめの小テストと解答の解説
- 30 まとめの演習と振り返り

授業時間 【事前学修】

外の学修 予習として次回の授業内容を確認し（1時間）、理解できなかった箇所を記録し調査する（2時間）
日々の生活の中で実践し、情報の収集をする（1時間）

【事後学修】

復習として授業内容を確認する（約1時間）

評価方法 演習への積極的参加(40%)、グループへの貢献度(20%)、ミニッツペーパー(20%)、課題の提出（20%）を総合的に評価する。
授業時間数1/3以上の欠席者は評価の対象とならない。

アクティブラーニング Think-Pair-Share、PBL、ケーススタディ

フィードバック 授業毎のミニッツペーパーに対して、次の授業の冒頭でフィードバックを行う。

実務経験 ○ 大手企業にて重役秘書としての実務経験を活かし、実践的な授業を行う。

教科書 なし。適宜プリントを配布する。

参考書 『バイリンガルオフィスプロの基礎』日本秘書協会 2022年 ISBN 978-4904131190

備考